

2017年度都市計画実習最終レポート

君の名は。

～宿舎全全全世帯間のコミュニケーションを深めよう～

2017年6月30日

ライフスタイルと環境班

班長 徳田伊織

副班長 柰屋溪造

渉外 桑原里奈

DB 太田和志

書記 西美佳

印刷 中野奈美

鈴木賢人

信賀春輝

長山寛之

指導教員 甲斐田直子

TA 増田祐太郎

要旨

筑波大学学生宿舎は、大学一年目の新生が学生間の交流を深めることを重要視して運営されている（学生生活課より）。しかし、宿舎内において満足にコミュニケーションはとられているのか。我々はその疑問を出発点とし本研究を開始した。

本研究は、宿舎居住者がどの程度近隣居住者とのコミュニケーションを望んでいるのか調査するところからはじめ、望まれる適切な程度へとコミュニケーションを改善するための提案を考えた。7つの提案をまず学生生活課にヒアリングし、そのうち「宿舎で！パブリックビューイング」、「連絡掲示板」の2つを実習期間中に試行した。アンケートや実際の様子をもとに試行の効果を検証し、今後、「コミュニケーション」という観点において、宿舎がどうあるべきかを考える。

目次

第1章 序論.....	6
1.1 背景.....	6
1.2 目的.....	6
1.3 研究の流れ.....	7
第2章 本論.....	8
2.1 宿舎の現状把握.....	8
2.1.1 春日、追越、平砂、一の矢宿舎現地調査.....	8
2.1.2 施設部へのヒアリング調査.....	8
2.1.3 グローバルヴィレッジ見学.....	9
2.2 プレアンケート「筑波大学学生宿舎の生活環境に関する調査」.....	10
2.2.1 アンケート分析.....	10
2.2.2 コミュニティ形成モデル.....	15
2.3 施行前アンケート.....	15
2.3.1 定義.....	15
2.3.2 アンケート調査分析.....	16
2.4 学生生活課へのヒアリング調査.....	22
2.5 パブリックビューイング（試行①）.....	24
2.5.1 実施概要.....	24
2.5.2 試行の結果.....	25
2.6 連絡掲示板（試行②）.....	28
2.6.1 実施概要.....	28
2.6.2 試行の結果.....	29
第3章 提案.....	32
3.1 宿舎内交流スペースの提案.....	32
3.2 宿舎外交流スペースの提案.....	32
3.3 今後の課題.....	33

第4章 参考文献、謝辞	34
4.1 参考文献	34
4.2 謝辞	34
第5章 付録	35
5.1 アンケート質問内容	35
5.1.1 プレアンケート	35
5.1.2 試行前アンケート	36
5.1.3 パブリックビューイング事後アンケート	38
5.1.4 連絡掲示板事後アンケート	40
5.2 アンケート結果	42
5.2.1 プレアンケート分析	42
5.2.2 事前アンケート分析	43
5.2.3 パブリックビューイング事前アンケート	50
5.2.4 パブリックビューイング事後アンケート	50
5.2.5 掲示板事後アンケート	51

図表リスト

- 図 1.1 研究のフロー
- 図 2.1 回答者属性
- 図 2.2 面識人数と近隣住民の面識の平均値
- 図 2.3 コミュニケーション積極度と交流スペース満足度の平均
- 図 2.4 コミュニケーション満足度と交流スペース満足度の平均
- 図 2.5 コミュニケーション形成モデル
- 図 2.6 コミュニケーション分類
- 図 2.7 宿舎内交流スペースの利用頻度
- 図 2.8 宿舎外交流スペースの利用頻度
- 図 2.9 パブリックビューイング宣伝用チラシ
- 図 2.10 宿舎外交流スペース満足度の変化
- 図 2.11 宿舎外交流スペースを使用希望の変化
- 図 2.12 コミュニケーション満足度の変化
- 図 2.13 パブリックビューイングの参加理由
- 図 2.14 パブリックビューイングの満足度
- 図 2.15 女子棟ホワイトボードの経過
- 図 2.16 男子棟ホワイトボードの経過
- 表 2.1 面識人数と近隣住民との面識
- 表 2.2 コミュニケーション積極度と交流スペース満足度
- 表 2.3 コミュニケーション満足度と交流スペース満足度
- 表 2.4 独立変数間の相関関係
- 表 2.5 現在の宿舎での人間関係について
- 表 2.6 宿舎での望ましいコミュニケーションについて
- 表 2.7 乖離度とコミュニケーション度合いの重回帰分析
- 表 2.8 乖離度と各人間関係度合いの t 検定
- 表 2.9 検定に用いたアンケート項目
- 表 2.10 コミュニケーション量とコミュニケーション満足・積極度
- 表 2.11 宿舎内交流スペースにおける質問項目
- 表 2.12 宿舎外交流スペースにおける質問項目
- 表 2.13 交流スペース満足度とコミュニケーション満足度

第1章 序論

1.1 背景

筑波大学には、一の矢・平砂・追越・春日の4つのエリアに分けて、全部で69棟もの学生宿舎がある。入学する新1年生を主な入居受け入れ対象とし、毎年多数の応募がある。

宿舎では学類やサークル、バイト等の所属にとらわれず様々な人と暮らし、共同のキッチンや洗濯スペース等を使うことを通して交流の機会が多くあるだろう。しかし、実際に蓋を開けてみると、宿舎で隣室や同じ棟に住んでいるにも関わらず顔と名前が一致しない、同じ棟でも話したことがない人が何人もいるなどコミュニケーションが満足に取られていない状況が生まれている。また、入居者には宿舎に1年間住む権利があるが、途中で退去してしまう人も少なくない。現在のこの状態は、入居者同士の「気まずさ」など、快適な宿舎生活を送る上での弊害となっている。或いは、この状態を放置することは、防犯・防災面における脆弱性を増長させることにもなるため、好ましい状態ではないと考えられる。

現在、最も古い宿舎は昭和49年築であり、未改修棟の経年劣化による悪い生活環境に対する不満は避けられない。しかし、宿舎での生活に魅力がない・つまらない等、ソフト面が原因ならば、我々で工夫して改善することができるだろう。こうして我々は、コミュニケーションの適切化による宿舎生活の充実度向上の可能性に着目し、本実習のテーマとした。これが達成されることによって、長期的には、宿舎の防犯・防災性の向上、宿舎自体の印象の向上、ないしは思い出・友達・社交性といった人生の財産の創生にも繋がると考えられる。

1.2 目的

我々は、「望んでいるにも関わらず、宿舎で十分なコミュニケーションがとれていない」と感じている居住者に焦点を当てた。その原因は、ただ宿舎に住んでいるだけではコミュニケーションが生じるきっかけがないからであると考えた。

そのため、上記のような者に対して、きっかけを与える方策を投じる。宿舎は、「学類やサークルなど所属が異なる人々が共同生活を送る」という点がアパート暮らしとの違いであり、「新たなコミュニケーションが生まれる場」という長所がある一方で、「隣人と疎遠な関係だと気まずい」という短所を併せ持つ。そこで我々は、コミュニケーションを満足に値する適切な状態にすることで、「近隣住民を知らない」という不安感を解消し、また、居住者間で気を遣わない快適性を創生することを主たる目的とする。

1.3 研究の流れ

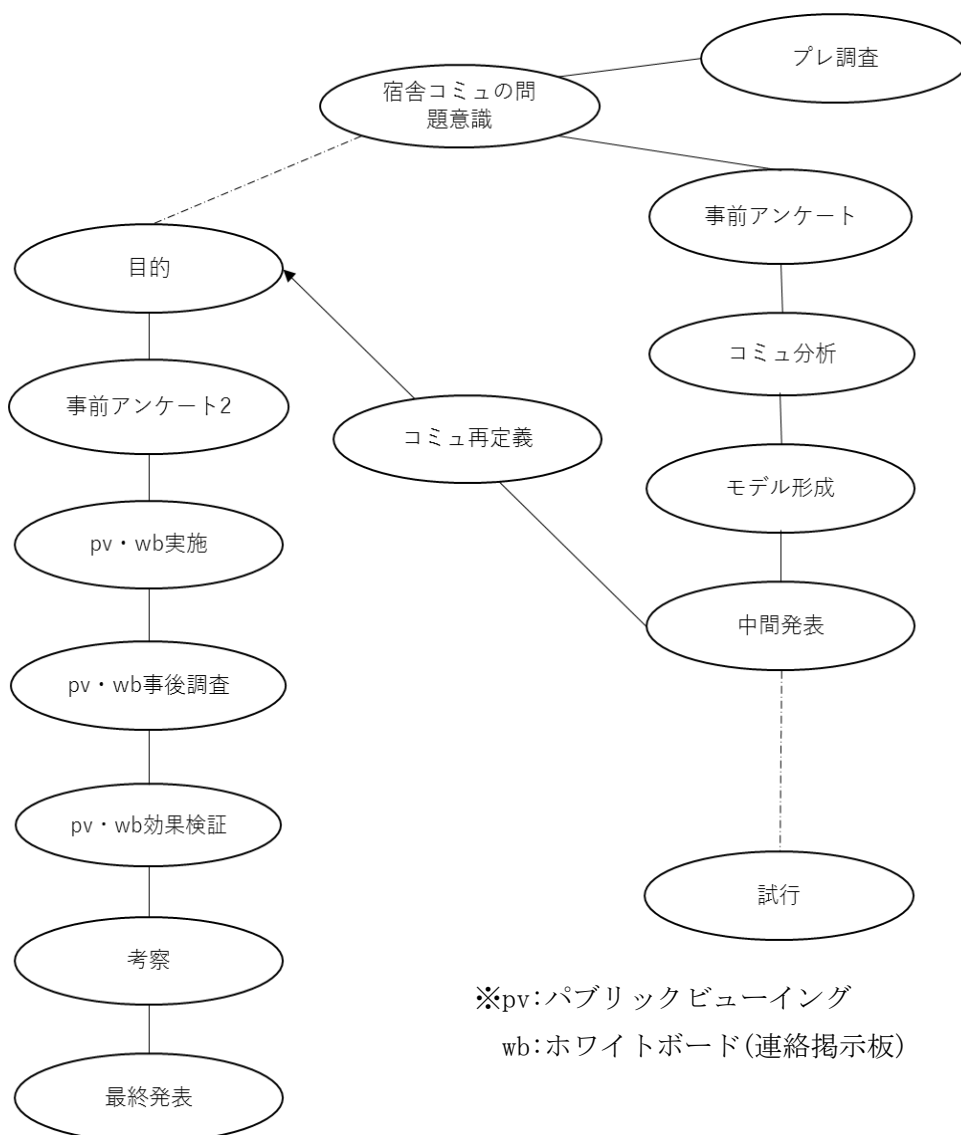


図 1.1 研究のフロー

まず、我々が着目した宿舎のコミュニケーションの不十分は、居住者も感じているのかどうか確かめるため、全学年を対象にプレ調査を行った。その結果、宿舎でのコミュニケーションに問題があると判断し、望ましい人間関係についてより詳しく事前アンケートを行い、提案を考えるためのコミュニケーション形成モデルを作成した。

中間発表後、我々が取り上げるコミュニケーションの定義とは何か、また、SNS でのコミュニケーションが普及している現代において、対面でのコミュニケーションがどの程度必要なかを考えた。その後、定義をもとに提案を行い、試行・アンケートによる効果を分析した。

第2章 本論

2.1 宿舎の現状把握

2.1.1 春日、追越、平砂、一の矢宿舎現地調査

日時	2017年5月2日 14:00～
----	------------------

我々はまず、問題の実態を把握すべく、実際の宿舎において現地調査をおこなった。

まず、春日宿舎に向いてみると、玄関の中に全員分の下駄箱があり、ここで靴を脱ぐことになっていることが分かった。他の宿舎ではこのような慣習は見られないが、これは後の施設部へのヒアリングで、図書館情報大学時代の名残である。玄関正面には掲示板が設置されており、連絡事項、諸注意、目安箱に対する担当者からの返事と行った掲示がなされている。また、宿舎民で集まって遊んだり、勉強を教え合ったりできるなど、自由に利用可能な談話室も存在する。他にも浴場があるなど、上記にも述べた通り春日宿舎は本来図書館情報大学の管理下であったため他の宿舎には見られない独自のルールや施設が存在した。

追越宿舎には、共用のスペースにソファが設けられていたり、一の矢宿舎の補食室は他の宿舎の倍ほどの広さがあったりなど宿舎間や棟ごとによって違いが見られた。一方、平砂宿舎では、共有の空間があるものの、ソファやその他家具などが一切置かれておらず、全く使用されていない場所が存在することが分かった。また、春日宿舎を除き、ほとんどの宿舎において補食室・キッチンが清潔に使用されていないことも判明した。

以上の現地調査の結果から、春日宿舎は清潔な棟内環境が整っており、コミュニケーションのための掲示板などがうまく機能していた。一方ほかの宿舎において共用のスペース、補食室が汚い場所もあった。そこで我々は、共用のスペースと宿舎内のコミュニケーションの間に何らかの関係性があるのではないかと予想し、この空間の使用に関する充実化が図られれば、コミュニケーションも適切化するのではないかと考えた。それを実現させる場所としては、補食室、また特に平砂宿舎では、廊下にある広場が考えられる。

2.1.2 施設部へのヒアリング調査

場所	本部アネックス棟
日時	2017年5月8日 15:00～16:30
対象者	筑波大学施設部、学生生活課

現地調査の結果出てきた疑問点や、コミュニケーション改善の提案について学校側の考えを知るべく、我々は次にヒアリング調査をおこなった。

筑波大学学生宿舎は、一年ごとに居住者が大きく入れかわることが特徴である。大学一年目の新入生が、学生間の交流を深めることを重要視している。

①宿舎へのテーブルやソファの設置について

宿舎の中には、廊下や広いスペースにテーブルやソファが置かれている場合がある。私たちは、ソファや畳などを設置し“たまり場”を創出することでコミュニケーションを誘発できると考えていた。しかし、「未成年飲酒や騒音問題が起こり、共同生活に支障をきたす」と学生生活課からの懸念が挙げられた。管理も大変である。また、利用するメンバーが固定化されてしまう可能性がある。

②宿舎土足禁止について

事前の宿舎見学調査において、春日の宿舎はエントランスに下駄箱が置かれ、建物内は土足禁止になっていた。清潔で住みやすい建物の良いイメージはコミュニケーションへの積極性にも影響が生じる可能性があると思い、ほかのエリアの宿舎にも実装すればよいと考えた。春日エリアの下駄箱は、図書館情報大学時代に日本人用宿舎だった名残であり、今からすべての宿舎に同じようなエントランスホールを作るのは経済的に困難である。しかし、廊下に各部屋に下駄箱を置くのは、避難経路の妨げになるので問題である。

③グローバルヴィレッジについて

今年から運営がスタートした。居住棟であるグローバルレジデンス内には、5人分のラウンジと個室、キッチン、トイレなどがそろったユニットがあるが、別の建物で「コミュニティステーション」というものがある。既存の宿舎でいう共用棟のような存在であるが、大きく違う点は、スタディールームや、大人数用キッチン、多目的ホール、和室など学生間の交流を促進するような設備が整えられていることだ。これらは21時まで使用可能である。

このようなシェアハウスタイプの成功例として、一橋大学の学生寮を紹介していただいた。一橋大学では、寮生の代表者が頻繁に会議をし、リーダーとしてまとめる役割を担う代わりに、4年間の居住権利を与えられる。筑波大学は約2年で居住者が入れ替わるので、一橋の制度を取り込むのは少々困難である。

2.1.3 グローバルヴィレッジ見学

日時	2017年5月10日 13:45～
----	-------------------

コミュニティステーションと呼ばれる共用棟には、24時間誰もが利用できるスペースと宿舎入居者が予約をすれば利用できるスペースがある。誰もが使えるスペースには軽食・飲料自販機、コピー機、居住者の宅配受け取りBOXがあり、宿舎入居者が利用できるスペースには、少人数で学習できる部屋、留学生向けの礼拝室、イベント紹介の掲示板、共有キッチン、和室、モニター・プロジェクターを完備した発表スペースがある。様々な催しを行うことが可能な空間となっている。

グローバルレジデンスと呼ばれるシェア型住居は5つの個室、2つのトイレ、シャワー、リビングで形成されていて、ユニットでコミュニケーションが取れるように玄関からリビングを通らないと個室に行けないような工夫がされている。棟、部屋、個室の玄関とそれぞれ鍵がないと入ることはできないためプライバシーは守られていると言える。洗濯機は各棟にないため、男女分かれてまとめて置かれている場所に入居者は歩いて洗濯をしに行っ

ている。これも入居者同士がコミュニケーションを取るための工夫と言える。以上のように様々な空間に入居者同士のコミュニケーションが取れる工夫と多様文化の人が生活できる空間となっている。

また、グローバルヴィレッジの住民の1年生女子2人に話を伺ったところ、「ユニット内でのコミュニケーションは積極的に行われているが、ユニット以外の人とかかわる機会はほとんどない」と言っていた。さらに、「コミュニティステーションも利用したことがなく、そういった機会を設けてくれれば、ぜひ参加したい」と述べていた。

2.2 プレアンケート「筑波大学学生宿舎の生活環境に関する調査」

2.2.1 アンケート分析

ここで我々は、2.1.1 現地調査において予想された、共用のスペースと宿舎でのコミュニケーションとの間にある関係性を見出すために、アンケート調査を行った。アンケートはGoogle フォームにより作成し、LINE を主な媒介として全学年を対象（宿舎居住者が多い1年生中心）に拡散した。以下に回答と分析の結果について記す。

実施期間	2017年5月6日～5月11日
回答者数	195人

表 2.1 回答者属性

n = 195

社会工学類	90人	人文・文化学群	12人
理工学群	33人	生命環境学群	10人
情報学群	18人	社会・国際学群	8人
体育専門学群	14人	その他	12人

< *t* 検定、相関係数 >

まず *t* 検定により、次の内容について有意であることが分かった。

- ① 近隣住民との面識がある人は、面識がない人に比べて、宿舎内の面識人数が多い
- ② 近隣住民との面識がある人は、面識がない人に比べて、コミュニケーション満足度が高い
- ③ 交流スペース満足度が高い人は低い人に比べてコミュニケーション積極度、コミュニケーション満足度が共に高い

まず①について、以下の質問

Q:同じ棟内で顔と名前が一致する入居者との関係性 (近隣入居者 (宿舎での知り合い) 学類・授業が同じ 部またはサークルが同じ) に対して、「近隣住民」と回答した人と回答していない人に群分けし、両者の間の Q:同じ棟内で顔と名前が一致する人数 (何人) に対しての人数の平均値を比較した。

表 2.1 近隣住民との面識の有無と棟内の面識人数

プレアンケート内分析	有る人平均	無い人平均	F 値	pF	t 値	pt
近隣と面識の有無→面識人数	6.69	3.30	1.01	1.00	2.96	0.002***



図 2.2 面識人数の平均値

次に②について、

Q:同じ棟内で顔と名前が一致する入居者との関係性 (近隣入居者 (宿舎での知り合い) 学類・授業が同じ 部またはサークルが同じ) に対して、「近隣住民」と回答した人と回答していない人に群分けし、 Q:宿舎生活におけるコミュニケーション (入居者との交流方法) に対する満足度 (全くもって不満 1 ~ 5 大変満足) の平均値を比較した。

表 2.1 近隣住民との面識の有無とコミュニケーション満足度

プレアンケート内分析	有る人平均	無い人平均	F 値	pF	t 値	pt
近隣と面識の有無→コミュ満足度	3.56	2.94	0.79	0.41	3.11	0.001***

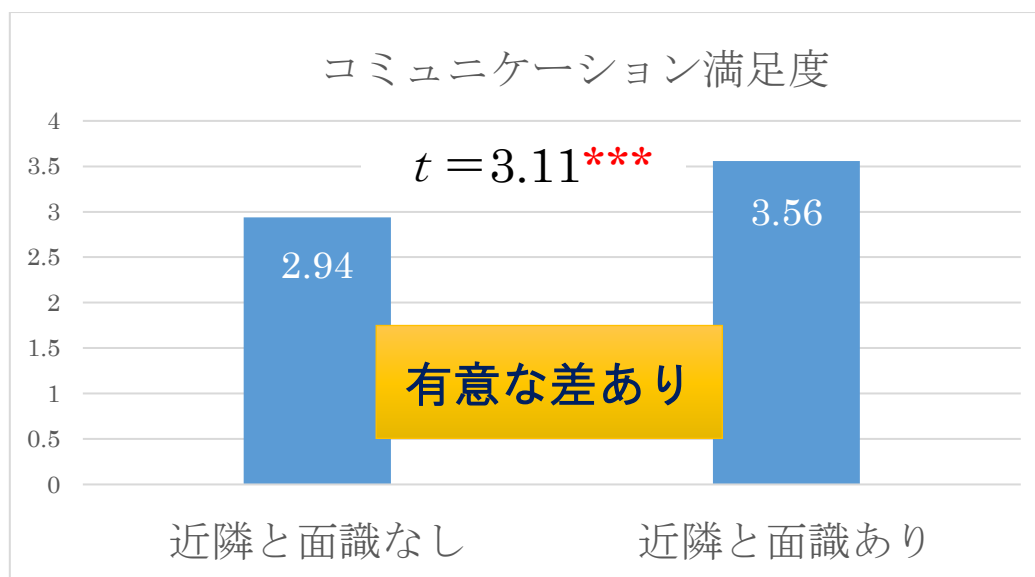


図 2.2 コミュニケーション満足度の平均値

続いて③について、以下の質問

Q: 宿舎生活における棟内の交流スペースに対する満足度

(全くもって不満 1 ~ 5 大変満足)

に対して、満足度が (1~3) の低い人と、(4~5) の高い人に群分けし、両者の間の

Q: 宿舎生活のコミュニケーション(入居者との交流方法)に対する積極度

(非常に消極的 1 ~ 5 非常に積極的)

および、

Q: 宿舎生活におけるコミュニケーション(入居者との交流方法)に対する満足度

(全くもって不満 1 ~ 5 大変満足)

の平均値を比較した。

表 2.3 コミュニケーション満足度と交流スペース満足度

プレアンケート内分析	低い人平均	高い人平均	F 値	pF	t 値	pt
交流スペース満足高低→コミュ積極度	2.52	3.00	1.41	0.26	-2.16	0.02**
交流スペース満足高低→コミュ満足度	2.93	3.53	1.15	0.64	-2.83	0.003***

※ $p < 0.05$ (**) $p < 0.01$ (***)

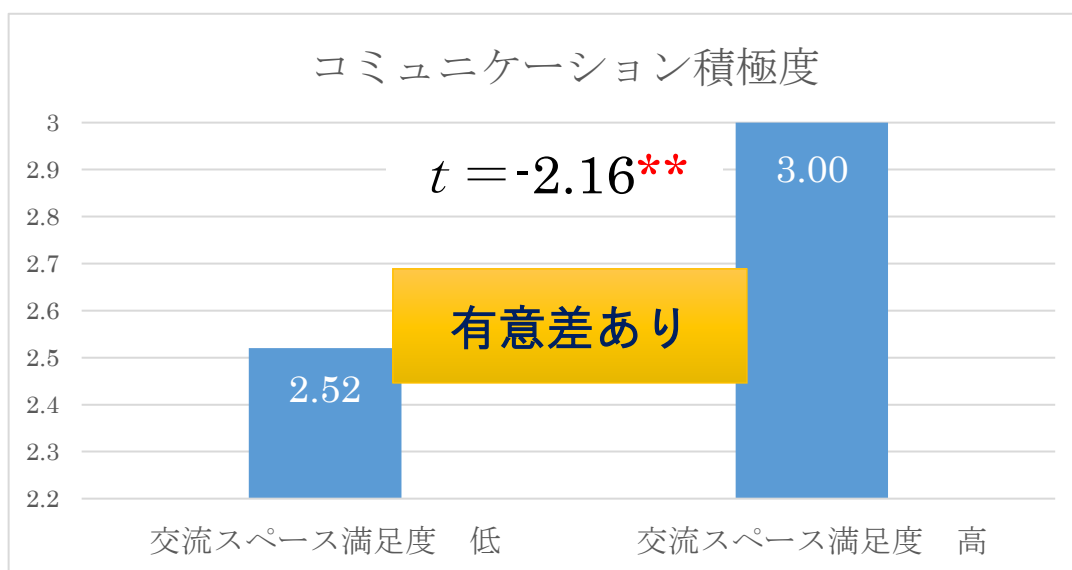


図 2.3 コミュニケーション積極度と交流スペース満足度の平均

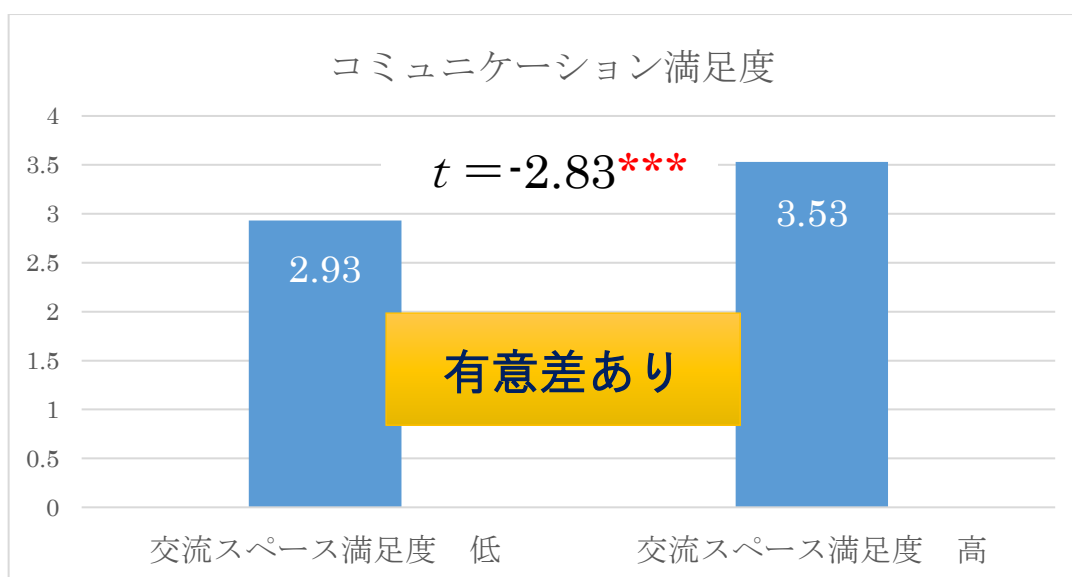


図 2.4 コミュニケーション満足度と交流スペース満足度の平均

続いて、それぞれの独立変数間に相関関係があるかどうかを調べた。t検定において関係が見られた事項のうち、次の内容について相関が認められる。

- (1)「交流スペース積極利用度」と「コミュニケーション積極度」
- (2)「近隣住民の面識の有無」と「コミュニケーションに対する積極度および満足度」

以上のt検定と相関係数による分析により、共用のスペースには、宿舎でのコミュニケーションの状態に影響するということが分かった。従って、コミュニケーションの適切化のために、共用のスペースに対して何らかの施策を導入することが望ましいと考えられる。そこで、次にコミュニティ形成のためのモデルを考案した。

表 2.4 独立変数間の相関関係

	交流スペース 満足度	交流スペース 積極度	コミュニケー ション満足度	コミュニケー ション積極度	面識がある 人数
交流スペース満足度		0.201*	0.301***	0.232**	0.166
交流スペース積極度			0.109	0.189*	0.152
コミュニケーション 満足度				0.453***	0.3396***
コミュニケーション 積極度					0.342***
面識がある人数					
※ p<0.10(*), p<0.05(**),p<0.01(***)					

2.2.2 コミュニティ形成モデル

プレアンケートをもとに、コミュニケーションを改善する提案を考える指標として、コミュニティ形成モデルを考えた。コミュニケーションが少ない学生宿舎において、図 2.5 のように各人のコミュニケーションを増やすように直接アプローチするのみでは不十分である。プレアンケートより、交流スペースの利用がコミュニケーションの適切化に影響していることが分かったため、交流スペースの利用を通して、間接的にアプローチすることを踏まえ、提案を検討した。

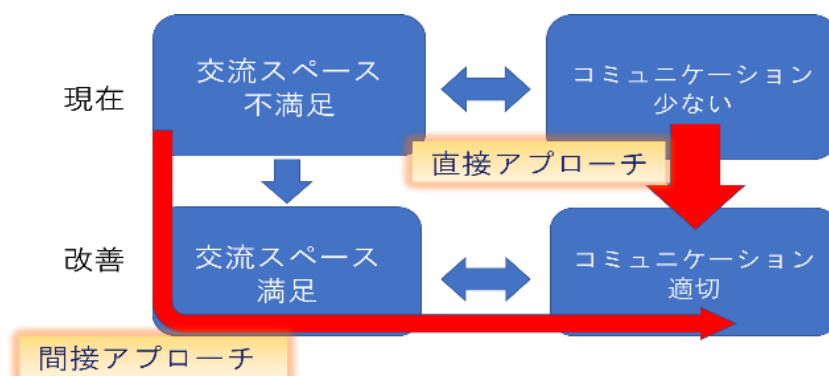


図 2.5 コミュニケーション形成モデル

2.3 施行前アンケート

「筑波大学学生宿舎のコミュニケーションに関する調査」

2.3.1 定義

アンケートを行うにあたって、我々の中で曖昧だと感じた言葉に定義を与えた。

・ コミュニケーション :

情報のみならず、感情を同じ時かつ同じ空間で共有すること。

SNS や事務連絡では伝わらない感情を、過度の対面人間関係による弊害が起こらない範囲において、同一空間で共有することを示す。

このようにコミュニケーションを定義した理由を述べる。現代において SNS でのコミュニケーションが普及し、対面でのコミュニケーションは以前ほど頻繁に密に取られなくなってきた。しかし、Twitter などの SNS でオフ会（SNS 上で知り合った人と直接会うこと）や、一人で見に行った映画の感想を、対面の代わりに仕方がなく SNS で共有することなどが行われている。このような事例から、現代の大学生も、SNS でのコミュニケーションだけでなく「対面＝同じ時かつ同じ空間」での感情共有を必要としているのではないかと考えた。

・ 共用スペース

学生宿舎居住棟内における共用部分。トイレ、シャワールーム、洗濯室、補食室、談話

室、キッチンに相当する。

・交流スペース：

共用スペースのうち、日常生活で必ず使用する部分を除いたもの。補食室、談話室、キッチンに相当する。

・宿舎外交流スペース：共用棟を指す

・面識がある：

アンケート調査にて、「顔と名前が一致している状態」と定義。会話等の交流の有無には依らない。

・近隣住民：宿舎内の同一フロアかつ周囲 10 部屋程度の居住者。

2.3.2 アンケート調査分析

実施期間	5月31日～6月4日
調査対象	筑波大学学生宿舎に現在入居している学生
目的	現在のコミュニケーションの現状把握 宿舎での望ましいコミュニケーションの把握 宿舎内外の交流スペースについての利用や満足の状態の把握

回答者属性 n = 101

一の矢改修棟	38人
平砂改修棟	33人
追越改修棟	10人
春日宿舎	13人
グローバルヴィレッジ	7人

① コミュニケーションの定義を裏付けるための分析

対面度合いを基準にして人間関係を 8 つに分類し、

Q:あなたは、現在よりも同じ棟の人とコミュニケーション（情報のみならず感情を同じ時、空間で共有することを指す）をとりたいと思いますか
（全くそう思わない 1 ～ 6 とてもそう思う）

Q:現在の宿舎生活で同じ棟の人とコミュニケーション（情報のみならず感情を同じ時、空間で共有することを指す）をとっていますか
（全くとっていない 1 ～ 6 非常にとっている）

以上のアンケートの質問内容の回答から

{棟内の人とのコミュニケーションの願望（6段階）－現在のコミュニケーション度合い（6段階）}を乖離度とした。乖離度はマイナスも存在しているが我々の目的はコミュニケーションが理想よりも取れていない人を理想に近づけることなので対象外としている。

アンケートにおいて、望まれると思われる人間関係を以下の8つに分け質問した。

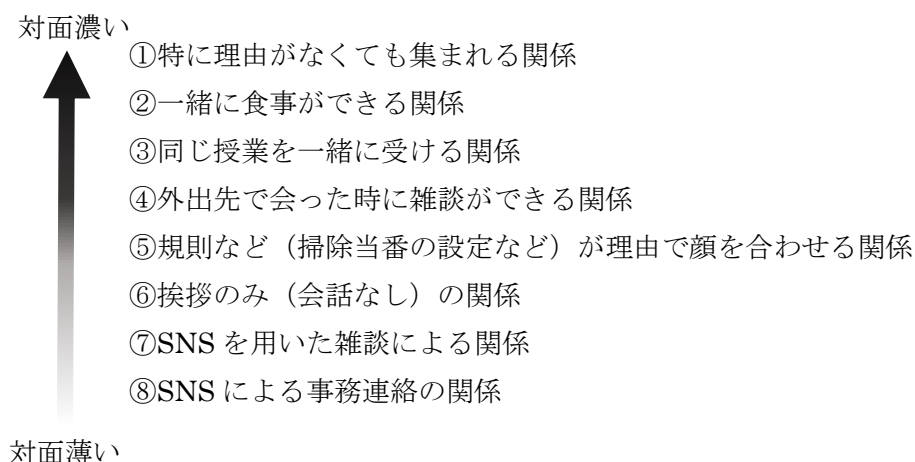


図 2.6 コミュニケーション分類

それぞれの人間関係について、重回帰分析と、対象者を乖離度が大きい群と小さい群に分けた t 検定を行い、我々のコミュニケーションの定義の妥当性について調べた。

表 2.5 現在の宿舎での人間関係について

現在の宿舎での人間関係について	全く当てはまらない	1	2	3	4	5	6	非常によく当てはまる
特に理由がなくても自然と集まれる		34人	20人	7人	18人	16人	6人	
一緒に食事ができる		33人	15人	7人	16人	11人	19人	
同じ授業を一緒に受ける		33人	12人	19人	11人	12人	14人	
外出先で会ったときに雑談ができる		12人	15人	9人	19人	25人	21人	
規則など(掃除当番の設定など)が理由で顔を合わせる		63人	18人	7人	3人	5人	5人	
挨拶のみ(会話はなし)		11人	17人	17人	20人	18人	18人	
SNSを用いた雑談		45人	17人	13人	9人	12人	5人	
SNSによる事務連絡		43人	10人	6人	14人	9人	19人	

表 2.6 宿舎での望ましいコミュニケーション

(※情報のみならず感情を同じ時、空間で共有すること) について

宿舎での望ましいコミュニケーションについて	全く当てはまらない	1	2	3	4	5	6	非常によく当てはまる
特に理由がなくても自然と集まれる		11人	14人	12人	20人	21人	23人	
一緒に食事ができる		13人	11人	8人	21人	20人	28人	
同じ授業を一緒に受ける		30人	16人	14人	15人	13人	13人	
外出先で会ったときに雑談ができる		7人	10人	9人	18人	22人	35人	
規則など(掃除当番の設定など)が理由で顔を合わせる		24人	13人	17人	22人	9人	16人	
挨拶のみ(会話はなし)		18人	21人	25人	19人	5人	13人	
SNSを用いた雑談		25人	17人	16人	22人	9人	12人	
SNSによる事務連絡		13人	9人	12人	25人	15人	27人	

表 2.7 乖離度とコミュニケーション度合いの重回帰分析

目的関数	人間関係	回帰係数	効果
乖離度	⑥挨拶のみ	0.26**	乖離を生む効果
	⑧SNSによる事務連絡	0.19*	
	④外出先で雑談	-0.28**	乖離をなくす効果
コミュニケーション満足度	①理由がなくても集まれる	0.36**	満足度を上げる効果

※** : p<0.05 * : p<0.10

※目的関数 :

乖離度 = (理想のコミュニケーションの度合い) - (現在のコミュニケーションの度合い)

※説明変数 : 各人間関係度合い (6段階) の回答値

表 2.8 乖離度と各人間関係度合いの t 検定

	人間関係
「乖離が小さい人」の回答値が高い関係	④外出先で雑談
	①理由がなくても集まれる
「乖離が大きい人」の回答値が高い関係	⑥挨拶のみ (会話なし)
	⑧SNSによる事務連絡

表 2.6 重回帰分析と表 2.7 の t 検定から、乖離をなくす、またはコミュニケーション満足度を上げる人間関係とは①特に理由がなくても集まれる関係、④外出先で会った時に雑談ができる関係であることがわかった。また、乖離を生む人間関係は⑥挨拶のみ (会話なし)、⑧SNSによる事務連絡の関係ということがわかった。このことから①と④は我々が求める理想的なコミュニケーションであることがわかり、直接会って感情を共有するコミュニケーションであるので、我々が定義したコミュニケーションである「同じ時かつ同じ空間で感情を共有したい」の妥当性は認められたといえる。

②施策を行うにあたっての分析

まずは、コミュニケーション促進の根拠とすべく、量的なコミュニケーションの増加が、その満足に良い影響を与えることを示す。

Q:現在の宿舎生活で同じ棟の人とコミュニケーション (情報のみならず感情を同じ時、空間で共有することを指す) をとっていますか

(全くとっていない 1 ~ 6 非常にとっている)

の回答に対して回答値が低い群 (1~3) と高い群 (4~6) に分け、

Q:現在の宿舎生活で同じ棟の人とコミュニケーションを積極的にとろうとしていますか

(全くしていない 1 ~ 6 非常に積極的である)

Q:現在の同じ棟の人とのコミュニケーションに満足していますか

(全くもって不満 1 ~ 6 大変満足)

の平均値の差について検定を行った。検定の結果を表 3.3.1 に示す。

表 2.9 検定に用いたアンケート項目

		1	2	3	4	5	6	
現在の宿舎生活で同じ棟の人とコミュニケーションをとっていますか	全くとっていない	17人	27人	18人	13人	12人	14人	非常にとっている
現在の宿舎生活で同じ棟の人とコミュニケーションを積極的にとろうとしていますか	全くしていない	22人	19人	19人	14人	17人	10人	非常に積極的である
現在の同じ棟の人とのコミュニケーションに満足していますか	全くもって不満	8人	11人	26人	25人	21人	10人	大変満足

表 2.10 コミュニケーション量とコミュニケーション満足・積極度

事前アンケート内分析	低い人の平均	高い人の平均	t 値
コミュ量高低→コミュ積極度	2.29	4.51	-8.59***
コミュ量高低→コミュ満足度	3.18	4.51	-5.29**

※*** : $p < 0.01$

この結果、確かに、量的なコミュニケーションの増加は、コミュニケーションの満足に良い影響を与えているといえ、コミュニケーション促進の根拠が示されといえる。

次に、宿舎内・外交流スペースと、コミュニケーション満足の関係性について調べた。

Q:現在宿舎内の交流スペース（補食室（キッチン）、談話室、廊下の広場空間）をどの程度利用していますか ※ただしトイレ、シャワールーム、洗濯室など、生活上必須の共用部分を除く

(毎日 週に 3~6 回 週に 1,2 回 月に 1,2 回 月に 1 回未満 利用していない)

および、

Q:現在の宿舎内の交流スペースに満足していますか

(全くもって不満 1 ~ 6 大変満足)

に対する、回答値が低い群（1~3）と高い群（4~6）に分け、

Q:現在の同じ棟の人とのコミュニケーションに満足していますか

(全くもって不満 1 ~ 6 大変満足)

の平均値の差について検定を行った。

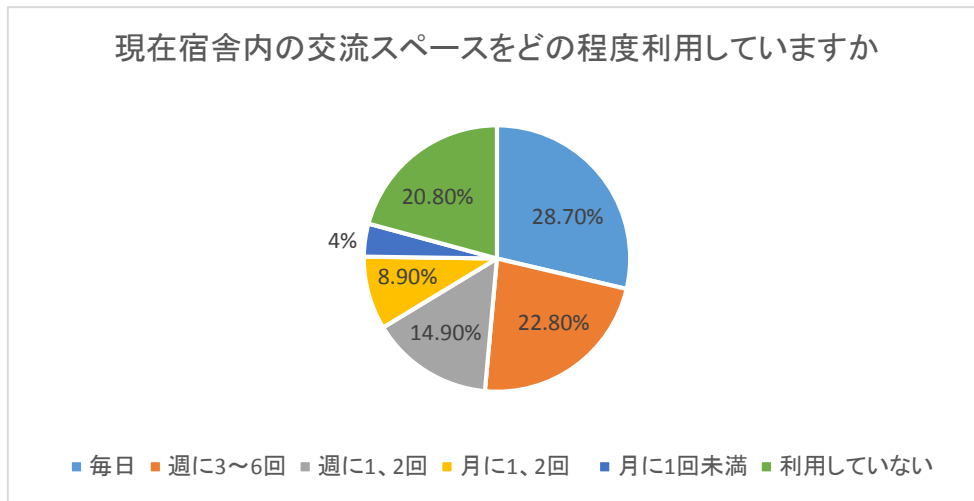


図 2.7 宿舎内交流スペースの利用頻度

表 2.11 宿舎内交流スペースにおける質問項目

宿舎内		1	2	3	4	5	6	
現在の宿舎生活で宿舎内の交流スペースを積極的に利用しようとしていますか	全くしていない	26人	20人	12人	19人	10人	14人	非常に積極的である
現在の宿舎内の交流スペースに満足していますか	全くもって不満	6人	19人	30人	23人	14人	9人	大変満足

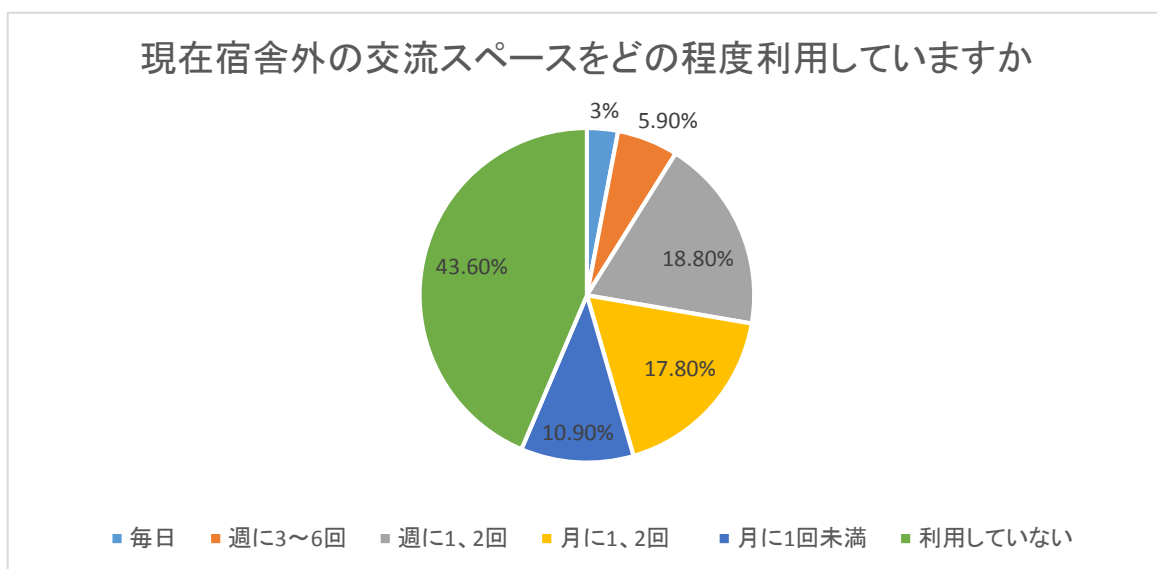


図 2.8 宿舎外交流スペースの利用頻度

表 2.12 宿舎外交流スペースにおける質問項目

宿舎外		1	2	3	4	5	6	
現在の宿舎生活で宿舎外の交流スペースを積極的に利用しようとしていますか	全くしていない	45人	25人	12人	11人	6人	2人	非常に積極的である
現在の宿舎外の交流スペースに満足していますか	全くもって不満	13人	11人	41人	22人	10人	4人	大変満足

表 2.13 交流スペース満足度とコミュニケーション満足度

事前アンケート内分析	低い人の平均	高い人の平均	t 値
宿舎内交流スペース満足度高低 →コミュ満足度	3.26	3.91	-2.25**
宿舎外交流スペース満足度高低 →コミュ満足度	3.56	4.04	-1.54*

※ ** : p<0.05 * : p<0.10

表 2.14 交流スペース使用頻度とコミュニケーション満足度

事前アンケート内分析	低い人の平均	高い人の平均	t 値
宿舎内交流スペース使用頻度 →コミュ満足度	3.26	3.91	-2.25**
宿舎外交流スペース使用頻度 →コミュ満足度	3.56	4.04	-1.54*

※ *** : p<0.01 ** : p<0.05 * : p<0.10

結果、以下の内容について述べることができる。

(1)表 2.13 より宿舎内・外の交流スペースの満足度が高い人は、低い人に比べてコミュニケーション満足度が高い。

(2)表 2.14 より宿舎内・外の交流スペースの使用頻度の高い人は、低い人に比べてコミュニケーション満足度が高い。

したがって、宿舎内・外の交流スペースの満足度、使用頻度を高めるような施策を行えば、コミュニケーションを適切にすることができると考えられる。

2.4 学生生活課へのヒアリング調査

実施日時	2017年5月14日(水)14:00～
実施対象	筑波大学学生生活課 大手昇一様 細沼祐介様
目的	提案内容に対して実施可能か、内容の精査を行う。

提案の検討を行うにあたって、我々の提案は実現可能か、内容の精査を行うために学生生活課にヒアリングを行った。

コミュニケーションの満足度を上げる要素として、交流スペースの利用満足度に関係性があると考えた。そこで、コミュニケーション満足度、交流スペース利用満足度に関する要素を考えた。面識を増やす、場の雰囲気、新しい出会いの場を提供すること、交流スペースの利便性、景観を良くする、資金・財源を確保するというようなことが要素として挙げられると考えた。これらの要素と事前アンケートをもとに次の7つ提案を検討した。

① パブリックビューイング

宿舎の居住者同士の対面的なコミュニケーションの場を創成する目的で、宿舎開催のパブリックビューイングを行う。開催場所として、一の矢共用棟とコミュニティステーションを検討。コミュニティステーションが、宿舎生全員が使える場所であることの周知も期待される。これは近隣との面識、場の雰囲気、新しい出会いの場を提供するといった3つの要素をもとに提案した。

→企画として実施可能とのこと。パブリックビューイングとして相応しい放映内容、時刻、キャパシティ、飲食持ち込み等を検討。イベント告知のため、宿舎掲示板にチラシを掲示することも検討するに至る。

② 掲示板

有益な情報共有を目的として、交流スペースに掲示板を設置する。スーパーの広告や居住者の所属している団体のイベントの広告等を掲示する。これは交流スペースの利便性を上げる要素をもとに提案した。

→広告を掲示する際に許可が必要。また張り替えは誰が行うのかという問題もあり、継続してゆくことが困難。

③ 自己紹介ボード

宿舎の居住者の情報交換を目的として、一人一人にホワイトボードを配布し、学年、学類、趣味など自己紹介を書いてもらう。それをドアや交流スペースに掲示する。これは近隣住民との面識を増やす要素をもとに提案した。

→ホワイトボードを毎年交換しなければならない上に宿舎生全員に配布するのはコストの面でも困難。

⇒しかし、自己紹介用紙を入居者に配布、補食室に大型の共用ホワイトボードを設置し、そこに用紙を貼ってもらうほか、連絡・伝達事項板、意見板などの用途としても使用させるように、②と③を融合する方法であれば実施可能であることが分かった。

④ 宿舎新歓

居住者同士のはじめの面識を与えるため、宿舎の入居日やオリエンテーションにて、コミュニティリーダーが中心となって新入生を歓迎する。これは面識、雰囲気、出会いの場を提供するといった3つの要素をもとに提案した。

→すでに春日宿舎など1部では行われているが、金銭面などを考慮すると全体に強制は困難。

⑤ 未改修棟の塗装計画

未改修棟の壁の塗装を居住者で行う。一の矢のショートステイハウスにて前例あり。協力によるコミュニケーションの促進、景観改善、宿舎のイメージアップに繋がる。また、以前に一の矢のショートステイハウスの中庭の壁を芸術専門学群の人が監修して行ったという情報もあったので、芸術専門学群の人の協力を仰ぐことも可能なのではないかと考えた。これは景観、出会いの場を提供するといった3つの要素をもとに提案した。

→未改修棟の廃止、取り壊しが決定しているので困難。しかしみんなで協力して何かを作ることは良い。

⑥ 宿舎集金

宿舎生に任意で集金を行い、宿舎の交流スペースに自分たちで充実させていく。これは資金・財源を確保するといった要素をもとに提案した。

→現実的に難しい。特に留学生へ正確に説明できない。

⑦ 宿舎公式 LINE を作成

宿舎生全員に対しての連絡手段として、メールはあるが登録者数が少ない。より利用率の高い連絡制度の実現のため、LINE アカウントを導入する。これは面識を増やす要素をもとに提案した。

→学生生活課の方で作成を検討

以上より、目的に合致した十分な効果、居住者の需要、経済性、および長期の継続性が見込まれる施策を実施可能なものとして選択した結果、①および(②③)を実際に試行として実施することに決定した。

2.5 パブリックビューイング（試行①）

2.5.1 実施概要

実施日時	2017年6月7日 19:00～
実施場所	コミュニティステーション、一の矢共用棟

試行の1つ目としてサッカー日本代表が行ったシリアとの親善試合のパブリックビューイングを行った。この試行は、コミュニケーションの少ない状態に直接アプローチして適切な状態に変える効果が見込める。また、事前アンケートの結果から、交流スペース満足度が上がるとコミュニケーション満足度が上がることがわかっているため、交流スペースの満足度を上げることによる間接アプローチによってコミュニケーションを適切な状態に変える効果も見込める。この試合を対象とした理由は、ほかにこの試合のパブリックビューイングをしている団体がいなかったこと、実習期間に無理なく実施できることなどである。



図 2.9 パブリックビューイング宣伝用チラシ

試行はコミュニティステーションと一の矢共用棟にて行い、それぞれ33人、10人の学生が参加。仲間と声をかけあって各々好きな食べ物を持参してきた。ゴールシーンやピンチ、チャンス時にはみな大きなリアクションをするなど、楽しんでいただようだった。

2.5.2 試行の結果

試合終了後、実験の事後アンケートを参加者に回答してもらい、事前に宿舎に住んでいる学生を対象に取ったアンケートと比較することにより分析を行った。

交流スペースの満足度を上げる効果が期待できるパブリックビューイングを行ったことにより、

Q:現在の宿舎外の交流スペース（共用棟、コミュニティステーション、宿舎食堂、共同浴場）に満足していますか

（全くもって不満 1 ～ 6 大変満足）、

Q:今後、日常生活で宿舎外の交流スペースを利用したいと思いますか（談話目的、食事目的など）

（全くそう思わない 1 ～ 6 とても思う）

の回答の平均値が事前アンケートに比べて増加した。

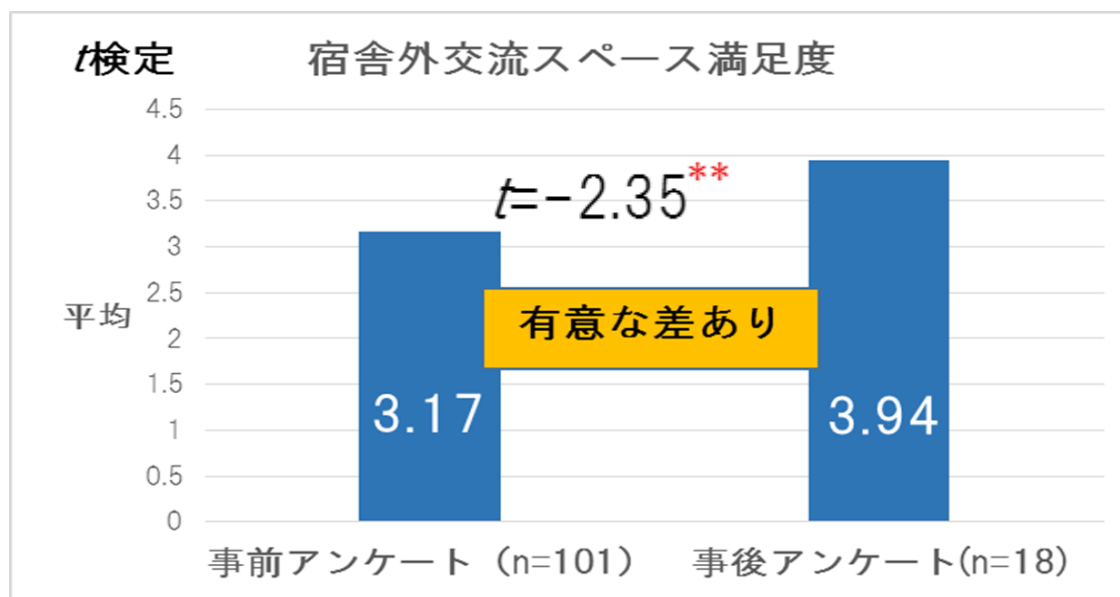


図 2.10 宿舎外交流スペース満足度の変化

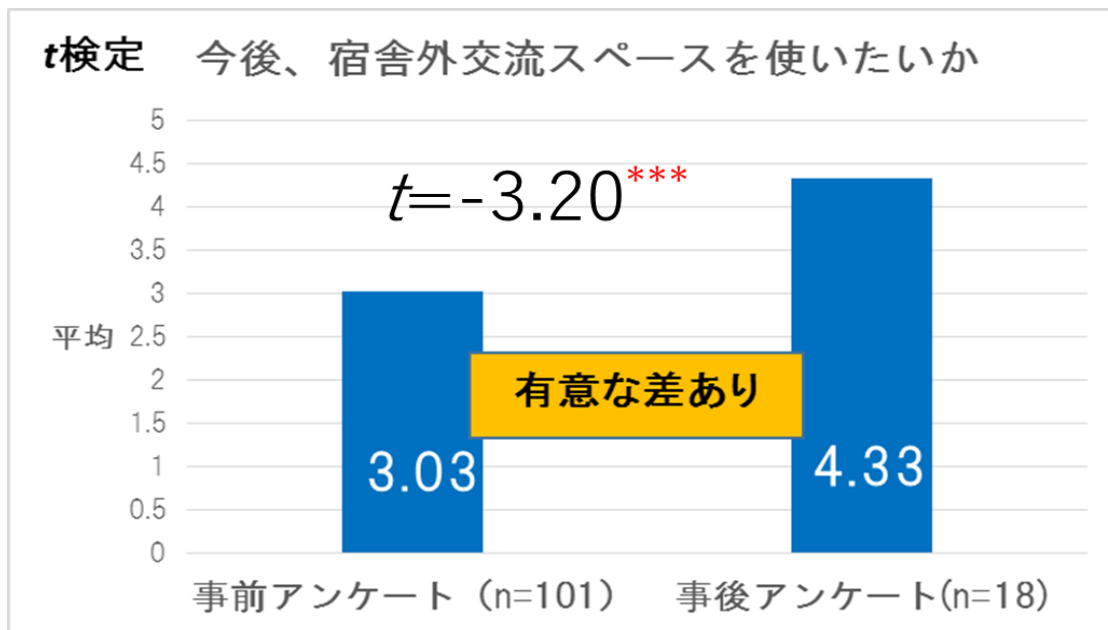


図 2.11 宿舎外交流スペースを使用希望の変化

さらにパブリックビューイングはコミュニケーション満足にも影響を与える効果が期待でき、その結果

Q:宿舎入居者間のコミュニケーション（情報のみならず感情を同じ時、空間で共有すること）に満足していますか

（全くもって不満 1 ～ 6 大変満足）

の回答の平均値が事前アンケートに比べて増加した。

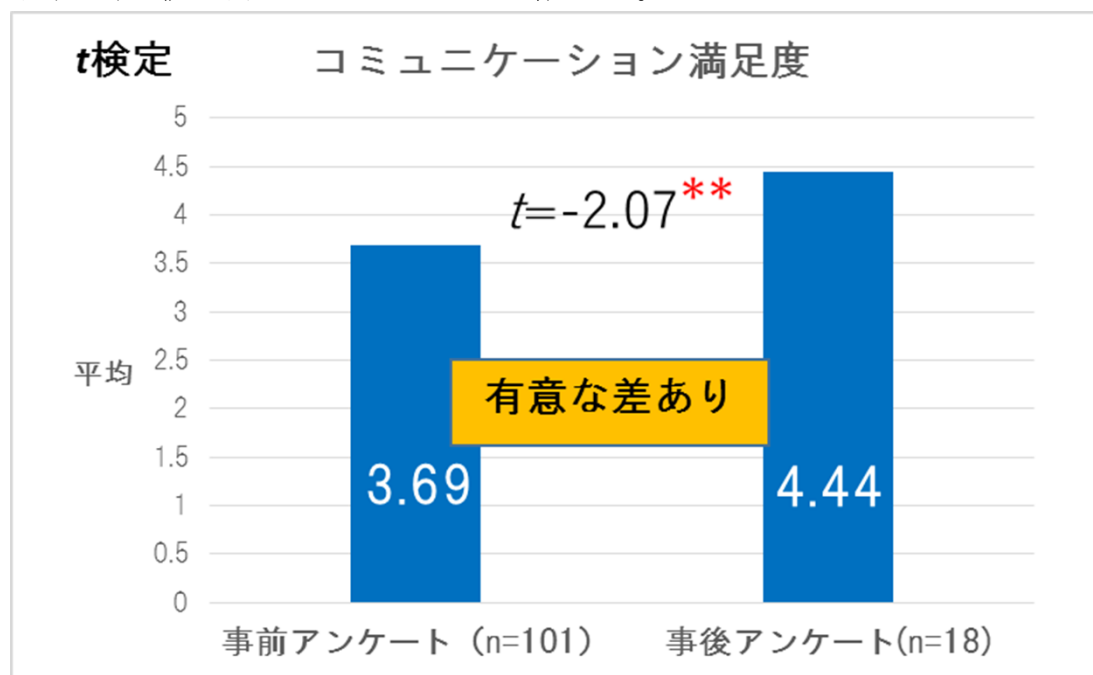


図 2.12 コミュニケーション満足度の変化

しかし、コミュニケーション満足度の増加についてはコミュニケーション満足度の高い人が企画に参加したのではないかという可能性も考えられる。

また、試行の事後アンケートでは

Q:参加理由（開催場所が近いから、交流スペースが快適そうであるから、無料だから、サッカーに興味があるから、パブリックビューイングに興味があるから、人の集まるイベントが好きだから、友達が行くから・誘われたから、時間があつたから）

Q:満足感（一緒に来た人と楽しむことができましたか、今まで知らなかった人と会話ができましたか、盛り上がることができましたか、開催場所は快適でしたか）

Q:パブリックビューイングの総合的な満足度を教えてください

（全くもって不満 1 ～ 6 大変満足）

を回答してもらった。

参加理由は以下の図 2.13 のようになり、そのなかでもサッカーに興味があるから、開催場所が近いから、人の集まるイベントが好きだから、スペースが快適そうだからという理由に注目した。

サッカーに興味があるから、開催場所が近いからという理由が高いことにより今後このような企画を行う際に、参加者の興味があるような企画の提案や開催場所に近いこと、つまり宿舎で開催することが重要だといえる。

また、人の集まるイベントが好きという理由で参加した人は少なく、これは参加者のコミュニケーション積極度に偏りがあまり無かったということが言える。つまり参加者のコミュニケーション積極度がもともと高いために、コミュニケーション満足度を高めているのではなく実験によって満足度が上昇したと考えられる。

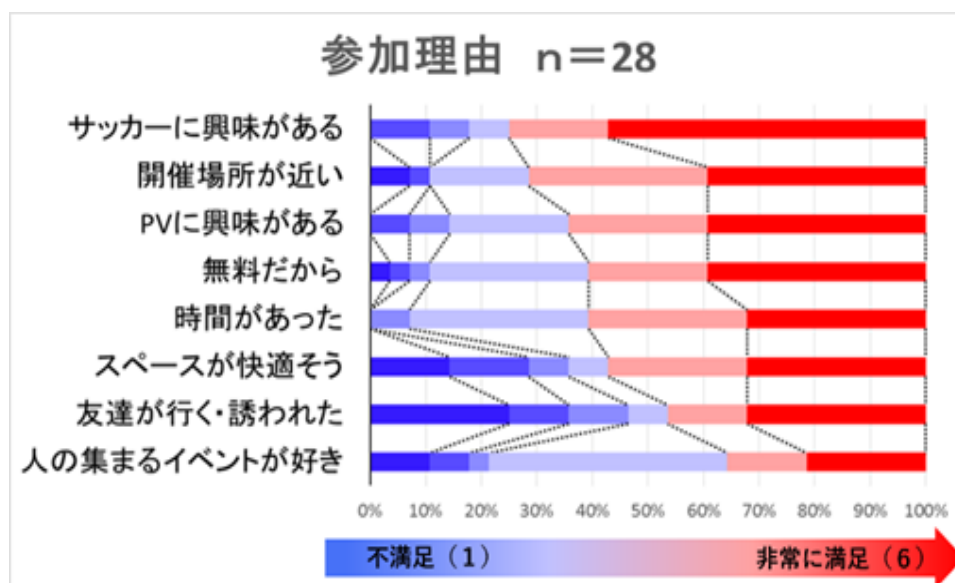


図 2.13 パブリックビューイングの参加理由

次に満足感については図 2.14 のようになり、参加理由では低かったスペースが快適そうという項目が、満足感の質問では快適性の満足感が高くなっていることより、会場である交流スペースに満足させるという目的の達成が言える。また、総合満足度は高い結果が出たので、よい試行だったといえると考えられる。

しかし知らなかった人との会話での満足感が低いのが今後の課題であり、企画に何らかの工夫が必要だと考えた。

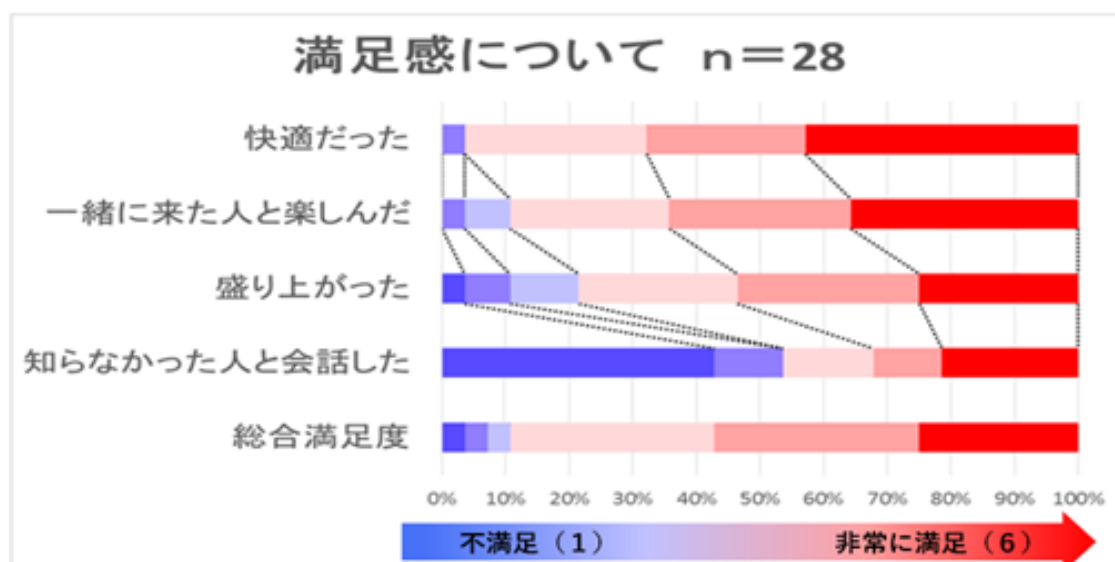


図 2.14 パブリックビューイングの満足度

2.6 連絡掲示板（試行②）

2.6.1 実施概要

実施日時	2017年6月6日～22日
実施場所	一の矢1A棟、3A棟
設置場所	各棟2、3階の補食室内部
掲示内容	自己紹介

2 つ目の試行として連絡掲示板を棟内の交流スペースに設置した。棟内に設置することによって近隣居住者との面識の増加、交流スペースの使用頻度増加に伴う交流スペース使用満足度の増加が見込める。

連絡掲示板は、コミュニケーションの問題に直接アプローチすることは難しいので、交流スペース満足度の改善を通じた間接アプローチによるコミュニケーションの改善を目指す。連絡掲示板を設置する前に試行を実施する一の矢1A(男子棟35人)、3A(女子棟35人)の居住者を対象に事前アンケートをとり、連絡掲示板を設置した事前と事後で比較するこ

とで試行がどういった効果をもたらすのかを調べた。今回は各補食室内に、ホワイトボードを計4台設置した。

2.6.2 試行の結果

女子棟

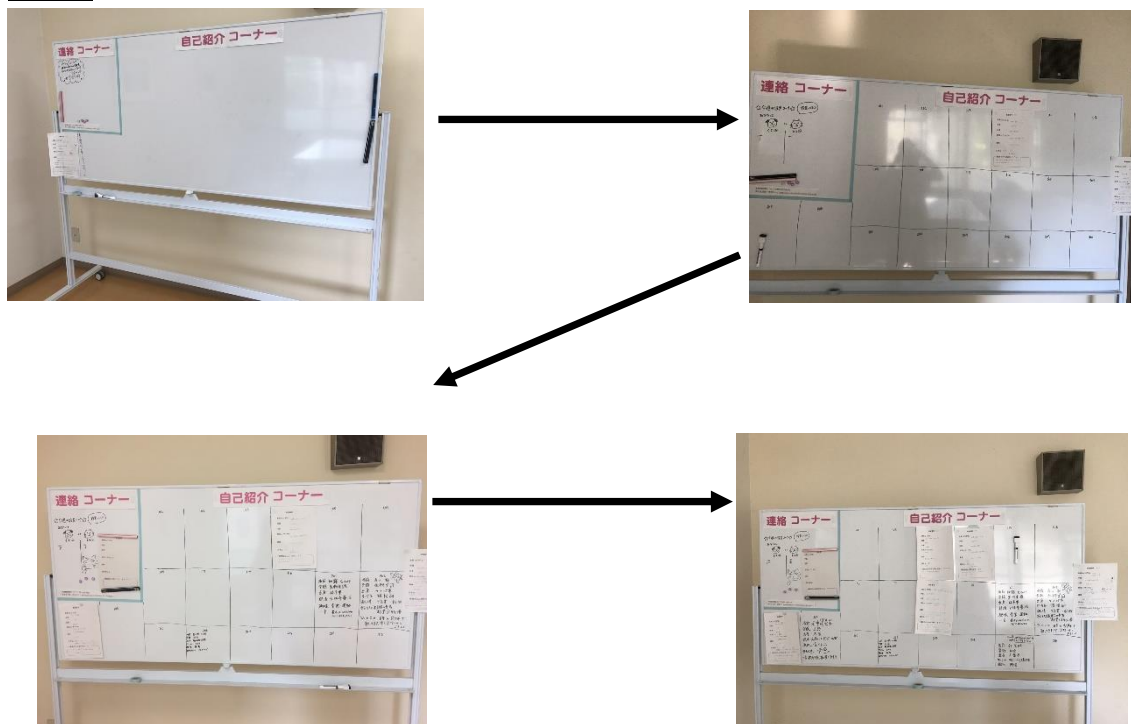


図 2.15 女子棟ホワイトボードの経過

男子棟

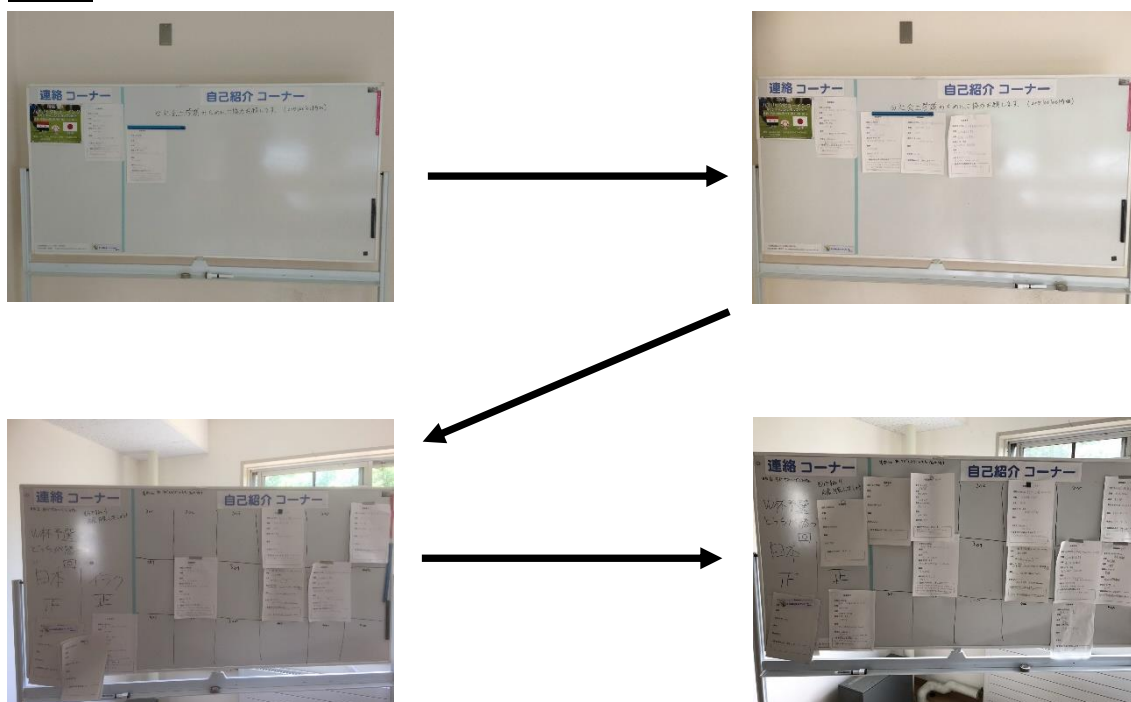


図 2.16 男子棟ホワイトボードの経過

実施後に事前アンケートを取った人を対象にアンケートを取り、2つを分析した。

以下の質問内容を中心に分析を行った。

有意な結果は得られなかったが、単純な平均値で比較したところ

Q:現在の宿舎生活で同じ棟の人とコミュニケーション（情報のみならず感情を同じ時、空間で共有することを指す）をとっていますか

（全くとっていない 1 ～ 6 非常にとっている）

Q:ホワイトボードの設置によって、近隣居住者（同じフロアの人）との面識が増えましたか（全く増えなかった 1 ～ 6 非常に増えた）

Q:現在の同じ棟の人とのコミュニケーションに満足していますか

（全く持って不満 1 ～ 6 大変満足）

は事前アンケートに比べ増加していた。

しかし、

Q:現在宿舎内の交流スペース（補食室（キッチン））をどの程度利用していますか

（毎日 週に3～6回 週に1,2回 月に1,2回 月に1回未満 利用していない）

Q:現在の宿舎内の交流スペース（補食室（キッチン））に満足していますか

（全く持って不満 1 ～ 6 大変満足）

に関しては事前アンケートに比べ減少していた。

それらの項目において減少してしまった要因としては数回にわたって入居者に協力を促したことで逆に掲示板の実験感が強く出てしまい自らコミュニケーションのために参加しようというよりも協力するために参加しようという感覚になってしまったことが考えられる。

実施した棟の入居者に班員が行ったヒアリングなどから有意な結果が得られなかった要因として考えられるものを挙げる。

① 試行したタイミングがあまり適してなかった

この試行は宿舎内で新たな人とのコミュニケーションを促進するためのものであったが、既にサークルや学類といった宿舎外でのコミュニティがある程度出来てしまった後であったため、そこであえて宿舎内で新たにコミュニティを築く必要性が見いだせなかった人が多かった可能性が考えられる。そのため、4月のまだコミュニティができる前に行うと、まず知り合いを作りたいという意思が働くことで今回とは異なった結果が得られた可能性があると考えられる。

② 実験数の少なさ

今回の実験では棟の全員が自己紹介に協力してくれたわけではなく、およそ半数にとどまってしまう全入居者とお互いに情報を共有できなかったことで棟全体としての交流をするのには不十分であったと考えられる。

③ 実施期間の短さ

入居者の声としてもっと長い期間行ってほしかったというものがあつたことから、実

施期間が17日間という短さであったことで十分に効果を得ることが難しかったと考えられる。

④ 施策が適切でなかった

諸連絡や自己紹介を書いてもらうという事務的ともいえる内容の施策であったことで参加する人が少なくなってしまったか。そのため交流するきっかけとはなりえなかったのではないか。

改善案としては多くの入居者に興味を持ってもらえるような内容にすれば結果もでると期待できる。

第3章 提案

3.1 宿舎内交流スペースの提案

同じ棟内で宿舎住民同士が仲を深めることを目的とする。棟内という、よりプライベートな空間を共有することで快適な生活や社交性を高める場としての空間創出も目指す。

連絡掲示板の試行では私たちの思うような成果は得られなかった。その理由としては試行を行った期間にはすでに宿舎外でコミュニティが形成されていたため、わざわざ宿舎でのコミュニティは必要ないと思われたことが推測できる。

したがって具体的な案としては入居時のオリエンテーションで各棟がコミュニティーリーダーを中心として自己紹介を行う、また自己紹介カードを配布するなどが考えられる。入居時では居住者のコミュニケーション積極度も高いと思われるので、新入生同士が互いのことを知り合える機会も増えるのではないかと考える。

ホワイトボード自体は設置してしまえば管理は簡単にでき、自己紹介カードの添付だけでなく、居住者に興味を持ってもらえるような掲示板コンテンツを考えることも重要である。実施する際は各棟に設置したい。

3.2 宿舎外交流スペースの提案

宿舎の住んでいる棟にかかわらず、宿舎住民同士が仲を深めることを目的とする。また、男女問わず今まで知らなかった人との新たな出会いの場としての空間創出も目指す。

パブリックビューイングの試行により、コミュニケーション積極度が低い人でもコミュニケーションの増加が見込めることがわかった。今後持続していくためには宿舎に近い場所で行う、居住者が興味を持つことを気軽に楽しめる環境であること、人手かかからず実行可能であることが必要である。

具体的な案としてはゲーム機器や卓球台の設置をし、ゲーム大会やゲーム機器の機能を利用した映画鑑賞会を行う。今まで話したことのない住民との交流をするために、名前、号棟とゲームスコアのランキングを表示することや、事前に鑑賞する映画タイトルを知らせる、入居時のオリエンテーションの際にこれらの共用棟の施設を紹介するなどといった工夫も必要であると考えられる。

これらの設備を同一人物、同一団体が使用し続け、使いたいと思っている人が使いにくいといった状況が起こることを防ぐために、ゲーム機器はケースに入れ、鍵を共用棟の管理事務室が管理し、卓球台はラケットやボールを事務室が管理し、使用の制限時間を設けるなどのルール作りを行うべきであると考えられる。

3.3 今後の課題

宿舎棟内、棟外の両方にいえることは、居住者のコミュニケーションを満足させるには、多様な興味に対応でき、なおかつ気軽に利用できる提案が必要であるということである。

コミュニケーションを望む度合いが各々によって違うことを良しとし、個人に合わせて交流スペースを利用すればいい、というのが我々の方針であった。しかし、コミュニケーションへの積極性の差をよく思わない人がいた場合、居住者間のコミュニケーションはどうあるべきか、という点が課題である。

第4章 参考文献、謝辞

4.1 参考文献

都市計画実習 2015 スマートキャンパス班

Why Japanese people! ～どうして宿舎で交流しないの!～

(http://toshisv.sk.tsukuba.ac.jp/jisshu/jisshu1/report/2015/g2_sc/)

4.2 謝辞

筑波大学学生生活課厚生・宿舎チーム

大手 昇一 様 細沼 祐介 様

筑波大学施設部

施設サービス課 山田 慶一 様

施設企画課 鷺森 航太 様

コミュニティステーションの管理人の方々

連絡掲示板の実験・調査に協力して下さった

一の矢学生宿舎 1A 棟、3A 棟居住者の皆様

アンケートに協力して下さった学生の皆様

環境経済・政策学研究室の学生の皆様

指導教員 甲斐田直子先生 TA 増田祐太郎さん

第5章 付録

5.1 アンケート質問内容

5.1.1 プレアンケート

- ① 性別
- ② 学群・学類
- ③ 宿舎入居年数
(入ったことはない、1年未満、1年、2年、3年、4年以上)
- ④ なぜ退去したのか
(汚かったから 狭かったから 立地が悪かったから キッチン・トイレ・シャワーの共用が嫌になったから 入居時からその予定だったから 入居者との人付き合いが近すぎて嫌だったから 近隣トラブルがあったか 入居者と疎遠すぎたから 自分の生活音が漏れるのが嫌だと感じたから 他人の生活音が聞こえるのが嫌だから その他)
- ⑤ 学年
- ⑥ あなたのフロアのコミュニティーリーダーの活動について
(同じフロアの住人の自己紹介を促していた LINE グループ作成 交流の場を作っていた 宿舎生活のアドバイスをしていた なにもしていなかった その他)
- ⑦ 入っている(最後の年に入っていた)宿舎
(一の矢改修棟 一の矢未改修棟 平砂改修棟 平砂未改修棟 追越改修棟 追越未改修棟 春日宿舎)
- ⑧ 同じ棟内で顔と名前が一致する人数(何人)
- ⑨ (⑧で0以外を回答した場合) 同じ棟内で顔と名前が一致する入居者との関係性
(近隣入居者(宿舎での知り合い) 学類・授業が同じ 部またはサークルが同じ)
- ⑩ (⑧で0以外を回答した場合) 同じ棟の顔と名前が一致する(していた)入居者との交流方法
(会話 学習 共同自炊 テレビ・ゲームなど 共同家事(自炊を除く) なにもしていない その他)
- ⑪ (⑩で「なにもしていない」以外を回答した) 同じ棟内の入居者とこれまでに会話した頻度(一番多い人を選択)
(ほぼ毎日 週に数回程度 月に数回程度 1,2回ある程度)
- ⑫ 宿舎生活のコミュニケーション(先ほど答えた入居者との交流方法)に対する積極度
(非常に消極的 1 ~ 5 非常に積極的)
- ⑬ 宿舎生活におけるコミュニケーション(先程答えた入居者との交流方法)に対する満足度
(全くもって不満 1 ~ 5 大変満足)

- ⑭ 棟内にある共用スペースのこれまでの使用頻度
 (ほぼ毎日 週に数回程度 月に数回程度 1,2 回ある程度 全く使用していない)
- ⑮ 宿舎生活における棟内の交流スペースに対する積極度
 (全く使わない 1 ~ 5 非常によく使う)
- ⑯ 宿舎生活における棟内の交流スペースに対する満足度
 (全くもって不満 1 ~ 5 大変満足)
- ⑰ 交流スペースにあったら良いものはあるか
 (ソファ 学生掲示板 食事用のテーブル、いすの増設 土足厳禁のスペース
 清掃用具 冷房・暖房 その他)
- ⑱ 交流スペースを使うことでコミュニケーションが増えると思うか
 (はい いいえ わからない)
- ⑲ あなたのフロアのコミュニティーリーダーの印象について
 (全く頼りにならなかった 1 ~ 5 大変頼りになった)
- ⑳ なぜ宿舎に入居しなかったのか
 (実家が大学に近かったから 汚いイメージがあったから 狭いイメージがあったから
 プライバシーが守られないと思ったから 他人の生活音が嫌だから トイレ・キッチン・洗濯機・シャワーを共用で使うことが嫌だったから その他)

5.1.2 試行前アンケート

- ① 学群・学類
- ② 性別
- ③ 入居している宿舎
 (一の矢改修棟 一の矢未改修棟 平砂改修棟 平砂未改修棟 追越改修棟
 追越未改修棟 春日宿舎)
- ④ 入居年数
 (入ったことはない、1年未満、1年、2年、3年、4年以上)

現在の宿舎での人間関係

- ⑤ 特に理由がなくても自然と集まれる
 (全く当てはまらない 1 ~ 6 非常によく当てはまる)
- ⑥ 一緒に食事ができる
 (全く当てはまらない 1 ~ 6 非常によく当てはまる)
- ⑦ 同じ授業を一緒に受ける

(全く当てはまらない 1 ～ 6 非常によく当てはまる)

⑧ 外出先で会ったときに雑談ができる

(全く当てはまらない 1 ～ 6 非常によく当てはまる)

⑨ 規則など(掃除当番の設定など)が理由で顔を合わせる

(全く当てはまらない 1 ～ 6 非常によく当てはまる)

⑩ 挨拶のみ

(全く当てはまらない 1 ～ 6 非常によく当てはまる)

⑪ SNSを用いた雑談

(全く当てはまらない 1 ～ 6 非常によく当てはまる)

⑫ SNSによる事務連絡

(全く当てはまらない 1 ～ 6 非常によく当てはまる)

⑬ 現在の宿舎生活で同じ棟の人とコミュニケーション(情報のみならず感情を同じ時、空間で共有することを指す)をとっていますか

(全くとっていない 1 ～ 6 非常にとっている)

⑭ 現在の宿舎生活で同じ棟の人とコミュニケーションを積極的にとろうとしていますか

(全くしていない 1 ～ 6 非常に積極的である)

⑮ 現在の同じ棟の人とのコミュニケーションに満足していますか

(全くもって不満 1 ～ 6 大変満足)

望ましい宿舎での人間関係

⑯ 特に理由がなくても自然と集まれる

(全く必要でない 1 ～ 6 非常に望ましい)

⑰ 一緒に食事ができる

(全く必要でない 1 ～ 6 非常に望ましい)

⑱ 同じ授業を一緒に受ける

(全く必要でない 1 ～ 6 非常に望ましい)

⑲ 外出先で会ったときに雑談ができる

(全く必要でない 1 ～ 6 非常に望ましい)

⑳ 規則など(掃除当番の設定など)が理由で顔を合わせる

(全く必要でない 1 ～ 6 非常に望ましい)

㉑ 挨拶のみ

(全く必要でない 1 ～ 6 非常に望ましい)

㉒ SNSを用いた雑談

(全く必要でない 1 ～ 6 非常に望ましい)

㉓ SNSによる事務連絡

(全く必要でない 1 ～ 6 非常に望ましい)

- ②④ あなたは、現在よりも同じ棟の人とコミュニケーション（情報のみならず感情を同じ時、空間で共有することを指す）とりたいと思いますか
（全くそう思わない 1 ～ 6 とてもそう思う）
- ②⑤ 入居者は、現在よりも同じ棟の人とコミュニケーションをとるべきだと思いますか
（全くそう思わない 1 ～ 6 とてもそう思う）
- ②⑥ 現在宿舎内の交流スペース（補食室（キッチン）、談話室、廊下の広場空間）をどの程度利用していますか ※ただしトイレ、シャワールーム、洗濯室など、生活上必須の共用部分を除く！
（毎日 週に3～6回 週に1,2回 月に1,2回 月に1回未満 利用していない）
- ②⑦ 現在の宿舎生活で宿舎内の交流スペースを積極的に利用しようとしていますか
（全くしていない 1 ～ 6 非常に積極的である）
- ②⑧ 現在の宿舎内の交流スペースに満足していますか
（全くもって不満 1 ～ 6 大変満足）
- ②⑨ あなたは、今後宿舎内の交流スペースを利用したいと思いますか
（全くそう思わない 1 ～ 6 とてもそう思う）
- ③⑩ 現在宿舎外の交流スペース（共用棟、コミュニティステーション、宿舎食堂、共同浴場）どの程度利用していますか
（毎日 週に3～6回 週に1,2回 月に1,2回 月に1回未満 利用していない）
- ③⑪ 現在の宿舎生活で宿舎外の交流スペースを積極的に利用しようとしていますか
（全くしていない 1 ～ 6 非常に積極的である）
- ③⑫ 現在の宿舎外の交流スペースに満足していますか
（全くもって不満 1 ～ 6 大変満足）
- ③⑬ あなたは、今後宿舎外の交流スペースを利用したいと思いますか
（全くそう思わない 1 ～ 6 とてもそう思う）
- ③⑭ コミュニティーリーダーには、同じ棟の人とコミュニケーション（情報のみならず感情を同じ時、空間で共有することを指す）を取るよう促してほしいと思いますか
（まったくそう思わない 1 ～ 6 とてもそう思う）

5.1.3 パブリックビューイング事後アンケート

- ① 性別
- ② 学群・学類
- ③ 入居している宿舎
（一の矢改修棟 一の矢未改修棟 平砂改修棟 平砂未改修棟 追越宿舎 グローバルヴィレッジ 入居していない）
- ④ 入居年数

- (入居していない 1年目 2年目 3年目 4年目以降 過去に入居していた)
- ⑤ 事前アンケート(筑波大学学生宿舎のコミュニケーションに関する調査)に回答しましたか
- ⑥ どの会場でパブリックビューイングに参加しましたか
(一の矢共用棟 コミュニティステーション (グローバルヴィレッジ))
- ⑦ パブリックビューイングの開催情報をどのようにして知りましたか
(LINE Twitter 宿舎の掲示板(電子掲示板を含む) 知人から聞いた 当日たまたま通りかかった その他)
- ⑧ 誰と一緒にきましたか
(同じ宿舎の友人 異なる宿舎の友人 宿舎外に住んでいる友人 一人 その他(家族、恋人))
- ⑨ 開催場所が近いから
(全く当てはまらない 1 ~ 6 非常に当てはまる)
- ⑩ 交流スペースが快適そうであるから
(全く当てはまらない 1 ~ 6 非常に当てはまる)
- ⑪ 無料だから
(全く当てはまらない 1 ~ 6 非常に当てはまる)
- ⑫ サッカーに興味があるから
(全く当てはまらない 1 ~ 6 非常に当てはまる)
- ⑬ パブリックビューイングに興味があるから
(全く当てはまらない 1 ~ 6 非常に当てはまる)
- ⑭ 人の集まるイベントが好きだから
(全く当てはまらない 1 ~ 6 非常に当てはまる)
- ⑮ 友達が行くから・誘われたから
(全く当てはまらない 1 ~ 6 非常に当てはまる)
- ⑯ 時間があったから
(全く当てはまらない 1 ~ 6 非常に当てはまる)
- ⑰ 一緒に来た人と楽しむことができましたか
(全くできなかつた 1 ~ 6 非常にできた)
- ⑱ 今まで知らなかった人と会話ができましたか
(全くできなかつた 1 ~ 6 非常にできた)
- ⑲ 盛り上がることができましたか
(全くできなかつた 1 ~ 6 非常にできた)
- ⑳ 開催場所は快適でしたか
(全く快適でない 1 ~ 6 非常に快適である)

- ⑳ パブリックビューイングの総合的な満足度を教えてください
(全くもって不満 1 ～ 6 大変満足)
- ㉑ コミュニティステーションがあることを以前から知っていましたか
- ㉒ コミュニティステーションが利用できることを知っていましたか
- ㉓ あなたは現在宿舎に入居していますか
- ㉔ 宿舎入居者間のコミュニケーション(情報のみならず感情を同じ時、空間で共有すること)に満足していますか
(全くもって不満 1 ～ 6 大変満足)
- ㉕ あなたは、今後の宿舎生活で、入居者間でのコミュニケーションをどの程度積極的にとりたいですか
(全く積極的ではない 1 ～ 6 非常に積極的)
- ㉖ 現在の宿舎外の交流スペース(共用棟、コミュニティステーション、宿舎食堂、共同浴場)に満足していますか
(全くもって不満 1 ～ 6 大変満足)
- ㉗ 今後、日常生活で宿舎外の交流スペースを利用したいと思いますか(談話目的、食事目的など)
(全くそう思わない 1 ～ 6 とてもそう思う)
- ㉘ 今後、今回のような宿舎でのイベントを開催してほしいと思いますか
(全くそう思わない 1 ～ 6 とてもそう思う)
- ㉙ 今後、今回のような宿舎でのイベントを開催することで、入居者間のコミュニケーション(情報のみならず感情を同じ時、空間で共有すること)が増えると思いますか
(全くそう思わない 1 ～ 6 とてもそう思う)

5.1.4 連絡掲示板事後アンケート

- ① 学群・学類
- ② 性別
- ③ 入居年数
(1年目 2年目 3年目 4年目以降)
- ④ 以前「筑波大学学生宿舎のコミュニケーションに関する調査」に答えていただきましたか
- ⑤ 補食室にホワイトボードが設置されていたことを知っていましたか
- ⑥ ホワイトボードをどのように使用しましたか(複数選択可)
(自己紹介シートを作成し、貼り付けた 掲示物を閲覧した 連絡事項、メモ、一言等を書いた 使用していない その他)
- ⑦ ホワイトボードの設置によって、近隣居住者(同じフロアの人)に興味を持ちましたか
(全く持てなかった 1 ～ 6 非常に持てた)

- ⑧ ホワイトボードの設置によって、近隣居住者（同じフロアの人）との面識が増えましたか
 （全く増えなかった 1 ～ 6 非常に増えた）
- ⑨ ホワイトボードの設置によって、補食室に行く回数ほどの程度増えましたか
 （全く増えなかった 1 ～ 6 非常に増えた）
- ⑩ ホワイトボードの使用満足度
 （全くもって不満 1 ～ 6 大変満足）
- ⑪ 今後、ホワイトボードを補食室に設置したらホワイトボードを使用したいと思いますか
 （全く思わない 1 ～ 6 非常に思う）

現在の宿舎での人間関係

- ⑫ 特に理由がなくとも自然と集まれる
 （全く当てはまらない 1 ～ 6 非常によく当てはまる）
- ⑬ 一緒に食事ができる
 （全く当てはまらない 1 ～ 6 非常によく当てはまる）
- ⑭ 同じ授業を一緒に受ける
 （全く当てはまらない 1 ～ 6 非常によく当てはまる）
- ⑮ 外出先で会ったときに雑談ができる
 （全く当てはまらない 1 ～ 6 非常によく当てはまる）
- ⑯ 規則など（掃除当番の設定など）が理由で顔を合わせる
 （全く当てはまらない 1 ～ 6 非常によく当てはまる）
- ⑰ 挨拶のみ（会話はなし）
 （全く当てはまらない 1 ～ 6 非常によく当てはまる）
- ⑱ SNS を用いた雑談
 （全く当てはまらない 1 ～ 6 非常によく当てはまる）
- ⑲ SNS による事務連絡
 （全く当てはまらない 1 ～ 6 非常によく当てはまる）
- ⑳ 現在の宿舎生活で同じ棟の人とコミュニケーション（情報のみならず感情を同じ時、空間で共有することを指す）をとっていますか
 （全くとっていない 1 ～ 6 非常にとっている）
- ㉑ 現在の宿舎生活で同じ棟の人とコミュニケーションを積極的にとろうとしていますか
 （全くしていない 1 ～ 6 非常に積極的である）
- ㉒ 現在の同じ棟の人とのコミュニケーションに満足していますか
 （全く持って不満 1 ～ 6 大変満足）
- ㉓ あなたは、現在よりも同じ棟の人とコミュニケーション（情報のみならず感情を同じ時、空間で共有することを指す）をとりたいと思いますか

(全くそう思わない 1 ~ 6 とてもそう思う)

②④ 入居者は、現在よりも同じ棟の人とコミュニケーションをとるべきだと思いますか

(全くそう思わない 1 ~ 6 とてもそう思う)

②⑤ 現在宿舎内の交流スペース(補食室(キッチン))をどの程度利用していますか

(毎日 週に3~6回 週に1,2回 月に1,2回 月に1回未満 利用していない)

②⑥ 現在の宿舎生活で宿舎内の交流スペース(補食室(キッチン))を積極的に利用しようとしていますか

(全くしていない 1 ~ 6 非常に積極的である)

②⑦ 現在の宿舎内の交流スペース(補食室(キッチン))に満足していますか

(全く持って不満 1 ~ 6 大変満足)

②⑧ あなたは、今後宿舎内の交流スペース(補食室(キッチン))を利用したいと思いますか

(全くそう思わない 1 ~ 6 とてもそう思う)

②⑨ 自由記述

5.2 アンケート結果

5.2.1 プレアンケート分析

t検定 F検定

①宿舎の交流スペースの満足度・積極利用度 → コミュニケーション積極度・満足度

コミュニケーション積極度・満足度 → 宿舎の交流スペースの満足度・積極利用度

プレアンケート内分析	低い人平均	高い人平均	F値	pF	t値	pt
交流スペース積極高低→面識人数	4.97	7.55	0.48	0.03**	-1.52	0.07
交流スペース積極高低→交流スペース満足度	2.68	2.8	0.43	0.01**	-0.44	0.67
交流スペース満足高低→交流スペース積極度	2.45	2.45	1.35	0.32	-0.02	0.51
交流スペース満足高低→コミュ積極度	2.52	3.00	1.41	0.26	-2.16	0.02**
交流スペース満足高低→コミュ満足度	2.93	3.53	1.15	0.64	-2.83	0.003***
コミュ積極高低→交流スペース積極度	2.79	3.10	1.54	1.54	-1.22	0.12
コミュ満足高低→交流スペース積極度	3.31	3.50	0.97	0.88	-0.78	0.22

②近隣住民との面識の有無 → コミュニケーション積極度・満足度・棟内の面識人数

近隣住民との面識の有無 → 宿舎の交流スペースの満足度・積極利用度

プレアンケート内分析	有る人平均	無い人平均	F 値	pF	t 値	pt
近隣と面識の有無→交流スペース積極度	2.55	2.27	0.85	0.59	0.99	0.16
近隣と面識の有無→交流スペース満足度	2.76	2.61	0.66	0.16	0.83	0.20
近隣と面識の有無→面識人数	6.69	3.30	1.01	1.00	2.96	0.002***
近隣と面識の有無→コミュ積極度	3.08	3.06	0.07	0.000***	0.03	0.49
近隣と面識の有無→コミュ満足度	3.56	2.94	0.79	0.41	3.11	0.001***

③相関係数

	交流スペース 満足度	交流スペース 積極度	コミュ満足度	コミュ積極度	面識がある人数
交流スペース満足度		0.20*	0.30***	0.23**	0.17
交流スペース積極度			0.11	0.19*	0.15
コミュ満足度				0.45***	0.34***
コミュ積極度					0.34***
面識がある人数					

※p<0.10(*), p<0.05(**),p<0.01(***)

5.2.2 事前アンケート分析

t 検定 F 検定

①コミュニケーション度合い : 現状と望ましい

事前アンケート内分析 n = 101	前平均	後平均	F 値	pF	t 値	pt
特に理由もなく	2.80	3.94	1.03	0.88	-4.80	0.000***
一緒に食事	3.14	4.07	1.25	0.26	-3.60	0.000***
同じ授業	2.99	3.04	1.03	0.89	-0.20	0.42
外出したとき雑談	3.92	4.42	1.11	0.60	-2.14	0.02**
規則などで顔を合わせる	1.85	3.27	0.67	0.05**	-6.31	0.000***
挨拶のみ	3.70	3.11	1.07	0.74	2.64	0.005***
SNS で雑談	2.42	3.09	0.94	0.75	-2.89	0.002***
SNS で事務連絡	2.93	4.00	1.39	0.10	-4.09	0.000***
コミュとってるか・とりたいか	3.18	4.08	1.19	0.38	-4.00	0.000***

② 宿舎の交流スペースの満足度・積極利用度・使用頻度 → コミュニケーション積極度・満足度

事前アンケート内分析 n=101	前平均	後平均	F 値	pF	t 値	pt
宿舎内交流スペース満足高低→コミュ積極度	3.00	3.33	0.69	0.19	-0.98	0.16
宿舎内交流スペース満足高低→コミュ満足度	3.38	4.07	1.25	0.45	-2.52	0.007***
宿舎内交流スペース積極高低→コミュ積極度	2.64	3.84	0.77	0.36	-3.82	0.000***
宿舎内交流スペース積極高低→コミュ満足度	3.43	4.04	1.00	1.00	-2.24	0.01**
宿舎外交流スペース満足高低→コミュ積極度	3.28	2.92	1.03	0.94	1.04	0.15
宿舎外交流スペース満足高低→コミュ満足度	3.49	4.06	0.95	0.85	-1.98	0.03**
宿舎外交流スペース積極高低→コミュ積極度	3.00	3.79	1.15	0.76	-1.89	0.03**
宿舎外交流スペース積極高低→コミュ満足度	3.65	3.84	0.74	0.36	-0.52	0.30
宿舎内交流スペース使用頻度→コミュ積極度	2.47	3.49	0.93	0.84	-3.03	0.001***
宿舎内交流スペース使用頻度→コミュ満足度	3.26	3.91	1.43	0.22	-2.25	0.01**
宿舎外交流スペース使用頻度→コミュ積極度	3.08	3.32	1.19	0.63	-0.65	0.26
宿舎外交流スペース使用頻度→コミュ満足度	3.56	4.04	1.20	0.61	-1.54	0.06*

③ 現状のコミュニケーション量 → 積極度・満足度

事前アンケート内分析 n=101	前平均	後平均	F 値	pF	t 値	pt
コミュとってるか高低→コミュ積極度	2.29	4.51	0.72	0.24	-8.59	0.000***
コミュとってるか高低→コミュ満足度	3.18	4.51	1.27	0.44	-5.29	0.000***

④ コミュニケーションの願望と現状の乖離状況 → 現状の人間関係

事前アンケート内分析 n=101	前平均	後平均	F 値	pF	t 値	pt
願望-現状の高低→特に理由もなく	1.80	2.87	1.39	0.43	-2.67	0.005***
願望-現状の高低→一緒に食事	1.90	3.36	2.08	0.08	-3.15	0.001***
願望-現状の高低→同じ授業	2.25	3.18	1.22	0.65	-1.99	0.03**
願望-現状の高低→外出したとき雑談	2.80	4.15	0.94	0.81	-3.26	0.001***
願望-現状の高低→規則などで顔を合わせる	1.60	1.75	0.98	0.90	-0.46	0.32
願望-現状の高低→挨拶のみ	4.70	3.34	0.82	0.54	2.47	0.008***
願望-現状の高低→SNS で雑談	1.75	2.41	1.83	0.14	-1.72	0.04**
願望-現状の高低→SNS で事務連絡	2.50	2.95	1.01	0.99	-0.89	0.19

⑤コミュニケーションの願望と現状の乖離状況 → 理想の人間関係

事前アンケート内分析 n=101	前平均	後平均	F値	pF	t値	pt
願望-現状の高低→(理想) 特に理由もなく	4.55	3.87	2.04	0.09*	1.60	0.06*
願望-現状の高低→(理想) 一緒に食事	4.80	4.00	2.03	0.09*	1.81	0.04**
願望-現状の高低→(理想) 同じ授業	3.30	3.15	0.82	0.54	0.32	0.37
願望-現状の高低→(理想) 外出したとき雑談	4.95	4.38	2.54	0.03**	1.80	0.04**
願望-現状の高低→(理想) 規則などで顔を合わせる	4.35	3.21	1.40	0.42	2.71	0.004***
願望-現状の高低→(理想) 挨拶のみ	3.50	3.10	0.49	0.04**	0.90	0.18
願望-現状の高低→(理想) SNSで雑談	3.65	2.97	0.72	0.34	1.67	0.05**
願望-現状の高低→(理想) SNSで事務連絡	4.60	3.85	1.16	0.75	1.79	0.04**

重回帰分析

「宿舎での人間関係（願望-現状）」を目的関数

「各種人間関係の回答値」を説明変数

回帰統計	
重相関 R	0.50
重決定 R ²	0.25
補正 R ²	0.18
標準誤差	1.66
観測数	101

分散分析表	自由度	変動	分散	観測された分散比	有意 F
回帰	8	83.00	10.38	3.79	0.0007
残差	92	252.01	2.74		
合計	100	335.01			

	係数	標準誤差	t	P-値
切片	1.07	0.71	1.5	0.14
1.特に理由なく	-0.3	0.21	-1.5	0.13
2.一緒に食事	0.15	0.2	0.77	0.44
3.同じ授業	0.03	0.12	0.25	0.8
4.外出雑談	-0.2	0.17	-1.4	0.17
5.規則	0.01	0.14	0.05	0.96
6.挨拶のみ	0.26	0.11	2.24	0.03**
7.SNS雑談	-0.2	0.17	-1	0.33
8.SNS事務連絡	0.18	0.12	1.51	0.13

「宿舎での人間関係（願望-現状）」を目的関数

「コミュニケーション度合いの回答値」を説明変数

回帰統計	
重相関 R	0.50
重決定 R ²	0.25
補正 R ²	0.20
標準誤差	1.64
観測数	101

分散分析表	自由度	変動	分散	観測された分散比	有意 F
回帰	6.00	82.83	13.80	5.15	0.00
残差	94.00	252.18	2.68		
合計	100.00	335.01			

	係数	標準誤差	t	P-値
切片	1.07	0.71	1.52	0.13
1.特に理由なく	-0.3	0.21	-1.5	0.13
2.一緒に食事	0.16	0.2	0.82	0.41
4.外出雑談	-0.2	0.16	-1.4	0.16
6.挨拶のみ	0.26	0.11	2.32	0.02**
7.SNS雑談	-0.2	0.17	-1.1	0.29
8.SNS事務連絡	0.19	0.11	1.7	0.09

「宿舎での人間関係（願望<現状）の人のみ」を目的関数

「コミュニケーション度合いの回答値」を説明変数

回帰統計		自由度	変動	分散	観測された分散比	有意 F	
重相関 R	0.47	回帰	8.00	38.40	4.80	2.54	0.02
重決定 R ²	0.22	残差	72.00	135.84	1.89		
補正 R ²	0.13	合計	80.00	174.25			
標準誤差	1.37						
観測数	81.00						

	係数	標準誤差	t	P-値
切片	2.99	0.52	5.71	0.00 ***
1. 特に理由なく	0.36	0.16	2.27	0.03 **
2. 一緒に食事	-0.07	0.15	-0.51	0.61
3. 同じ授業	0.02	0.09	0.23	0.82
4. 外出雑談	0.06	0.12	0.47	0.64
5. 規則	-0.01	0.1	-0.07	0.94
6. 挨拶のみ	-0.1	0.08	-1.2	0.23
7.SNS雑談	0.17	0.13	1.37	0.17
8.SNS事務連絡	-0.13	0.09	-1.5	0.14

「宿舎での人間関係（願望≥現状）の人のみ」を目的関数

「コミュニケーション度合いの回答値」を説明変数

回帰統計		自由度	変動	分散	観測された分散比	有意 F	
重相関 R	0.46	回帰	5.00	37.59	7.52	4.13	0.00
重決定 R ²	0.22	残差	75.00	136.65	1.82		
補正 R ²	0.16	合計	80.00	174.25			
標準誤差	1.35						
観測数	81.00						

	係数	標準誤差	t	P-値
切片	2.28	0.62	3.64	0.00 ***
1. 特に理由なく	-0.1	0.14	-1	0.34
4.外出雑談	-0.3	0.13	-2.2	0.03 **
6.挨拶のみ	0.11	0.1	1.04	0.3
7.SNS雑談	-0.1	0.15	-0.9	0.4
8.SNS事務連絡	0.18	0.1	1.77	0.08 *

「宿舎での人間関係（願望 \geq 現状）の人のみ」を目的関数

「コミュニケーション度合いの回答値」を説明変数

回帰統計	
重相関 R	0.68
重決定 R ²	0.46
補正 R ²	0.07
標準誤差	0.73
観測数	20.00

	自由度	変動	分散	観測された分散比	有意 F
回帰	8.00	5.04	0.63	1.17	0.39
残差	11.00	5.91	0.54		
合計	19.00	10.95			

	係数	標準誤差	t	P-値
切片	-1.91	1.04	-1.8	0.09 *
1. 特に理由なく	-0.4	0.44	-0.9	0.39
2. 一緒に食事	-0.04	0.51	-0.1	0.94
3. 同じ授業	0.19	0.12	1.5	0.16
4. 外出雑談	0.04	0.27	0.15	0.89
5. 規則	0.13	0.14	0.92	0.38
6. 挨拶のみ	0.03	0.17	0.2	0.85
7.SNS雑談	0.21	0.22	0.94	0.37
8.SNS事務連絡	0.04	0.14	0.26	0.8

「宿舎での人間関係（願望 \geq 現状）の人のみ」を目的関数

「コミュニケーション度合いの回答値」を説明変数

回帰統計	
重相関 R	0.67
重決定 R ²	0.45
補正 R ²	0.31
標準誤差	0.63
観測数	20.00

	自由度	変動	分散	観測された分散比	有意 F
回帰	4.00	4.97	1.24	3.12	0.05
残差	15.00	5.98	0.40		
合計	19.00	10.95			

	係数	標準誤差	t	P-値
切片	-1.7	0.37	-4.5	0.00 ***
1.特に理由なく	-0.4	0.13	-3.4	0.00 ***
3.同じ授業	0.2	0.1	2.04	0.06 *
5.規則	0.14	0.11	1.29	0.22
7.SNS雑談	0.24	0.11	2.27	0.04 **

「コミュニケーション満足度」を目的関数

「コミュニケーション度合いの回答値」を説明変数

回帰統計	
重相関 R	0.55
重決定 R ²	0.30
補正 R ²	0.24
標準誤差	1.22
観測数	101.00

	自由度	変動	分散	観測された分散比	有意 F
回帰	8.00	57.52	7.19	4.87	0.00
残差	92.00	135.97	1.48		
合計	100.00	193.49			

	係数	標準誤差	t	P-値
切片	2.99	0.52	5.71	0.00 ***
1.特に理由なく	0.36	0.16	2.27	0.03 **
2.一緒に食事	-0.07	0.15	-0.51	0.61
3.同じ授業	0.02	0.09	0.23	0.82
4.外出雑談	0.06	0.12	0.47	0.64
5.規則	-0.01	0.1	-0.07	0.94
6.挨拶のみ	-0.1	0.08	-1.2	0.23
7.SNS雑談	0.17	0.13	1.37	0.17
8.SNS事務連絡	-0.13	0.09	-1.5	0.14

「コミュニケーション満足度」を目的関数

「コミュニケーション度合いの回答値」を説明変数

回帰統計	
重相関 R	0.54
重決定 R ²	0.30
補正 R ²	0.25
標準誤差	1.20
観測数	101.00

	自由度	変動	分散	観測された分散比	有意 F
回帰	6.00	57.42	9.57	6.61	0.00
残差	94.00	136.06	1.45		
合計	100.00	193.49			

	係数	標準誤差	t	P-値
切片	2.99	0.52	5.76	0.00 ***
1.特に理由なく	0.36	0.15	2.36	0.02 **
2.一緒に食事	-0.07	0.14	-0.49	0.63
4.外出雑談	0.06	0.11	0.56	0.58
6.挨拶のみ	-0.1	0.08	-1.2	0.23
7.SNS雑談	0.17	0.12	1.36	0.18
8.SNS事務連絡	-0.13	0.08	-1.56	0.12

5.2.3 パブリックビューイング事前アンケート

t検定、F検定

事前－掲示板事前アンケート分析	前平均 n=101	後平均 n=37	F値	pF	t値	pt
望みのコミュ程度（事前と一の矢事前）→特に理由なく	3.94	3.00	1.12	0.72	2.97	0.0018***
望みのコミュ程度（事前と一の矢事前）→一緒に食事	4.07	3.38	0.98	0.90	2.07	0.020**
望みのコミュ程度（事前と一の矢事前）→同じ授業	3.04	2.65	1.17	0.60	1.16	0.124
望みのコミュ程度（事前と一の矢事前）→外出先雑談	4.42	3.49	0.69	0.16	2.86	0.0025***
望みのコミュ程度（事前と一の矢事前）→規則など	3.27	2.59	1.35	0.31	2.08	0.020**
望みのコミュ程度（事前と一の矢事前）→挨拶のみ	3.11	3.35	0.91	0.69	-0.79	0.2152
望みのコミュ程度（事前と一の矢事前）→SNS雑談	3.09	2.51	1.19	0.56	1.82	0.0353**
望みのコミュ程度（事前と一の矢事前）→SNS事務連絡	4.00	3.19	0.96	0.86	2.47	0.0073***

5.2.4 パブリックビューイング事後アンケート

パブリックビューイング実施前と実施後による入居者の変化

事前－PV事後アンケート分析	前平均 n=101	後平均 n=18	F値	pF	t値	pt
宿舎外交流スペース満足の差	3.17	3.94	0.7	0.3	-2	0.01**
今後、宿舎外交流スペースを使いたいかの差	3.03	4.33	1.2	0.7	-3	0.001***
コミュニケーション満足の差	3.69	4.44	0.8	0.4	-2	0.02**
今後入居者間コミュニケーションを積極的にとりたいかの差	4.07	4.94	2.3	0.05**	-3	0.002***

5.2.5 掲示板事後アンケート

掲示板実施前と実施後による入居者のコミュニケーションに関する変化

事前－掲示板事後アンケート分析	前平均 n=38	後平均 n=27	F値	pF	t値	pt
コミュとってるか 前後	3.03	3.19	1.1	0.7	-0.4	0.35
コミュとりたいか 前後	3.73	3.63	1.3	0.5	0.26	0.4
コミュとるべきか 前後	3.78	3.7	1	1	0.21	0.42
コミュニケーション満足 前後	3.51	3.7	1.4	0.4	-0.47	0.32
コミュニケーション積極度 前後	3.05	3.04	1.1	0.9	0.04	0.48

掲示板実施前と実施後による入居者の宿舎内交流スペース（捕食室）に関する変化

事前－掲示板事後アンケート分析	前平均 n=38	後平均 n=27	F値	pF	t値	pt
宿舎内交流スペース満足 前後	3.62	3.11	1.6	0.2	1.5	0.07*
宿舎内交流スペース積極 前後 (質問内容に差)	3.03	3.3	1.1	0.8	-1	0.27
宿舎内交流スペース利用したいか 前後 (質問内容に差)	3.72	3.96	1	0.9	-1	0.27
宿舎内交流スペース使用頻度 前後	3.32	2.81	1.3	0.5	1.2	0.12

掲示板実施前と実施後による入居者のコミュニケーション度合いの変化

事前－掲示板事後 アンケート分析	前平均 n=38	後平均 n=27	F値	pF	t値	pt
願望-現状の高低 →特に理由もなく	2.54	2.81	0.8	0.52	-0.7	0.24
願望-現状の高低 →一緒に食事	3.03	3.48	0.84	0.61	-1	0.16
願望-現状の高低 →同じ授業	2.76	2.96	1.04	0.94	-0.4	0.33
願望-現状の高低 →外出したとき雑談	3.14	3.33	0.98	0.93	-0.4	0.34
願望-現状の高低 →規則で顔を合わせる	1.78	2	0.7	0.31	-0.7	0.25
願望-現状の高低 →挨拶のみ	3.78	4.15	1.52	0.27	-0.9	0.18
願望-現状の高低 →SNSで雑談	1.86	2.63	0.35	0.00 4***	-2.3	0.01**
願望-現状の高低 →SNSで事務連絡	2.41	3.15	0.73	0.38	-1.5	0.06*